ベトナム国
ビズップ・ヌイバ国立公園
管理能力強化プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成 23 年 12 月
（2011年）

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環境
ＪＲ
13-248

ベトナム国
ビズップ・ヌイバ国立公園
管理能力強化プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成 23 年 12 月
（2011年）

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

目　　次

目次
地図
写真
略語表
要約表

第１章　プロジェクトの概要 1
　１－１　背景 1
　１－２　プロジェクトの要約 2
第２章　プロジェクトのレビュー 4
　２－１　目的 4
　２－２　方法 4
　　２－２－１　レビューの方法 4
　　２－２－２　調査団メンバー 4
　２－３　レビュー日程 5
第３章　プロジェクトの達成状況 7
　３－１　投入実績 7
　　３－１－１　日本側 7
　　３－１－２　ベトナム側 9
　３－２　主な活動の進捗 9
　３－３ アウトプットの達成状況 10
　３－４　プロジェクト目標の達成状況 14
第４章　レビュー結果 16
　４－１ 妥当性 16
　　４－１－１　地域住民のニーズとの整合性 16
　　４－１－２　ベトナム国政府の政策との整合性 16
　　４－１－３　日本政府の政策との整合性 17
　　４－１－４　JICA の戦略との整合性 17
　４－２　有効性 （プロジェクト目標達成度の見込み） 17
　４－３　効率性 18
　　４－３－１ 投入実績の要約 18
　　４－３－２　アウトプットの達成状況の要約 18
　４－４ インパクト （見込み） 19
　　４－４－１ 上位目標の達成状況尾 （見込み） 19
　　４－４－２ 地域住民へのインパクト 20
　　４－４－３　公園管理政策へのインパクト 20
　　４－４－４　組織面のインパクト 21
　４－５ 自立発展性 21
　　４－５－１ 組織面 21
　　４－５－２　財政面 21
　　４－５－３　技術面 21
第５章　結論 23
第６章　提言 24
　６－１　JCC と省運営委員会（PSC） に対する提言 24
　　６－１－１　PDM の変更 24
　　６－２－２　「国立公園」の意味について 25
　　６－３－３　流域管理事務所の EFLO WG への参加 25
　６－２　プロジェクトへの提言 25

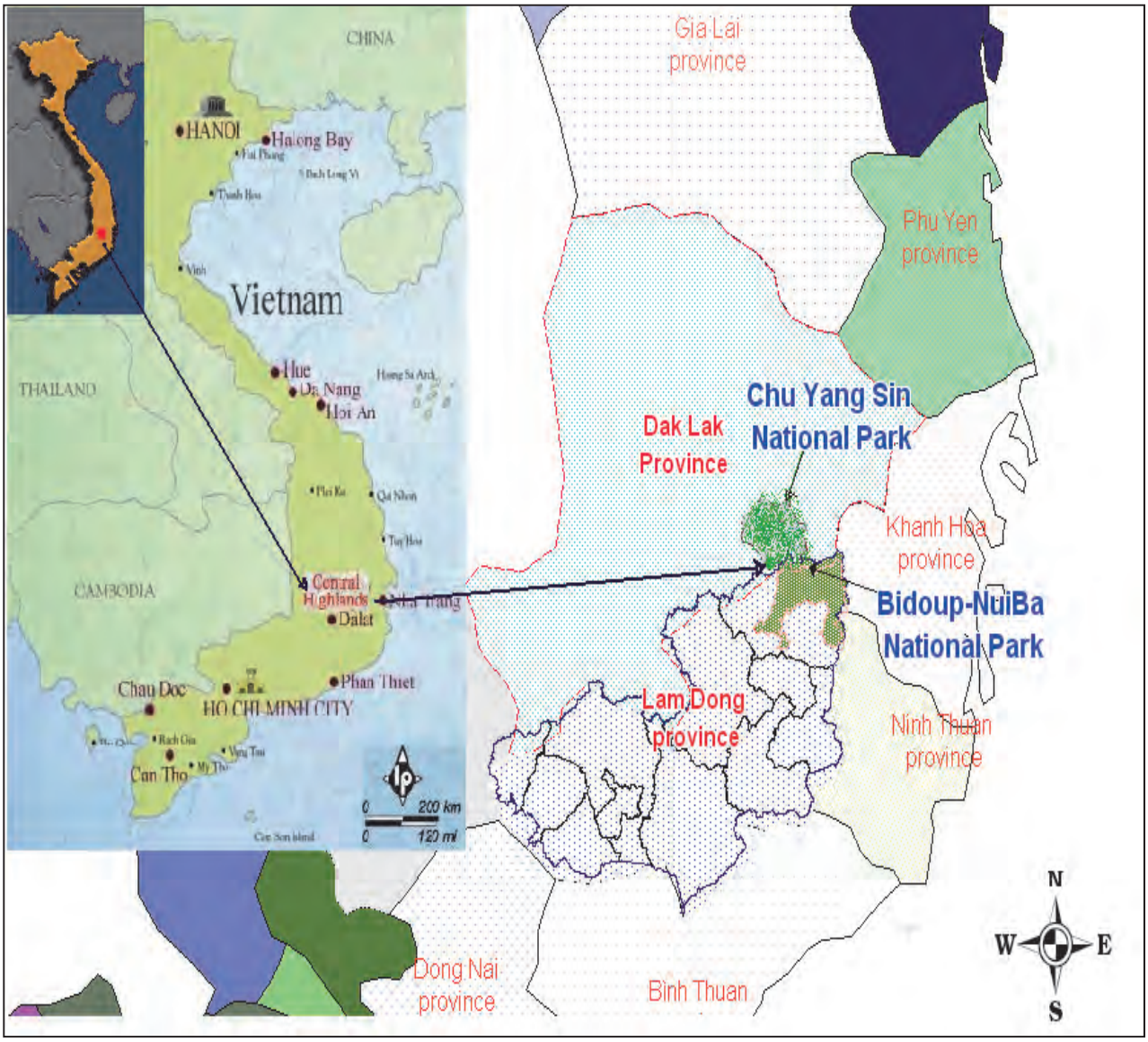
６－３　ラムドン省政府と BNBNPMB に対する提言 27
６－４　ベトナム中央政府（MARD）に対する提言 28
６－５　JICA に対する提言 28

表　一　覧

表１　日本人専門家の派遣状況〈2010 年 1 月～2011 年 11 月末〉 7
表２　本邦研修 7
表３　資機材供与　(*) 8
表４　Local Expenditure 8
表５　ベトナム側 C/P 及び WG メンバー 9
表６　C/P ファンド 9
表７　CBET WG メンバーの能力の向上度合い 10
表８　EFLO WG メンバーの能力の向上度合い 11
表９　視察旅行 11
表１０　FLO 活動への参加（2011 年 11 月） 14
表１１　協働管理モデルの理解 15
表１２　評価 5 項目によるレビュー結果 22
表１３　プロジェクト終了時までの達成状況のイメージ留意点 27

地　　図

（位置図）



出典: ビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所

写　　真

ビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所

EFLO に参加しているコーヒー農家

Farmer to Farmer Extension

ビジターセンター（内装工事中）

新しい公園管理事務所（4 月移転予定）

ビジターセンタートレイル

トレイル付近の養殖池

運営委員会（PSC）

略　語　表

ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
BLS	Base Line Survey	ベースライン調査
BNBNP	Bidoup-Nui Ba National Park	ビズップ・ヌイバ国立公園
BNBNPMB	Bidoup-Nui Ba National Park Management Board	ビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所
CBET	Community Based Eco-Tourism	住民主導型エコツーリズム
CEEE	Center for Ecotourism and Environmental Education	エコツーリズム・環境教育センター
C/P	Counterpart	カウンターパート
CPC	Commune Peoples' Committee	コミューン人民委員会
DARD	Department of Agriculture and Rural Development	農業農村開発局
DPC	District Peoples' Committee	郡人民委員会
EFLO	Ecologically Friendly Livelihood Options	環境保全型生計向上手段
FF	Farmer to Farmer Extension	農民から農民への普及
FFS	Farmer Field School	農民学校
FLITCH	Forest for Livelihood Improvement in the Central Highlands　（ADB）	中部高原地域における生計向上のための森林プログラム（アジア開発銀行）
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
MARD	Ministry of Agriculture and Rural Development	農業農村開発省
PAEC		農業普及センター
PBE	Practice Based Extension	実践重視の普及
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動計画
PPC	Provincial Peoples' Committee	（地方）省人民委員会
PRA	Participatory Rural Appraisal	参加型農村調査法
PSC	Programme Steering Committee	省運営委員会
R/D	Record of Discussions	討議議事録
TOT	Training of Trainers	指導者研修
WG	Working Group	ワーキンググループ

調査結果要約表

１．案件の概要	
国名：ベトナム社会主義共和国	案件名：ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト
所管部署：地球環境部　森林･自然環境保全第一課	援助形態：技術協力プログラム
(2)　協力期間： 2009 年 1 月～2013 年 12 月（4 年間）	先方関係機関： ラムドン省人民委員会、同省ビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所（BNBNPMB）、同省農業農村開発局（DARD）、同省文化･スポーツ･観光局（DOCST）、同省農業普及センター（PAEC）、ラクドン郡農業センター、中央政府農業農村開発省（MARD）

１－１．協力の背景と概要

ビズップ・ヌイバ国立公園は、ベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」と記す）ラムドン省の北東部に位置し、総面積は日本の尾瀬国立公園の約2倍に相当する7万38haとベトナム国内でも有数の大きな保護区である。1986年に自然保護区として指定された後、2004年に国立公園に昇格した。周囲にある3つの自然保護区（北部にChu Yang Sin 国立公園、東部にPhuoc Binh 国立公園、南部にLam Vien 景観保護区）の中心に位置することから、これら3つの保護区を結ぶ回廊（コリドー）としての役割も有し、この地域一帯の生物多様性保全にとって極めて重要な価値を持つ。また、同公園は亜熱帯高山気候の多様な森林生態系を有し、山地熱帯降雨常緑林、針広混交林、高山低木林、低山針葉樹疎林、コケ林、竹広混交林が分布する。その豊富な森林資源のために、同公園には多様性に富んだ動植物相が生息している。

世界的にも生物多様性が豊かなベトナム において、自然保護区の核となる国立公園を適切に管理する能力の向上は、貴重な生物多様性を保全する上で不可欠となる長期的な課題である。ベトナム政府は、2003年に保護区管理のあり方を示す *Management Strategy for a Protected Area System in Vietnam to 2010* を策定したほか、2000年以降に18カ所の国立公園を指定するなど、国立公園を中核に生物多様性保全のための具体的な施策を実施している。しかし、政府による国立公園管理のための技術的及び予算的な支援は限られており、多くの国立公園では現場レベルでの管理を十分に行えているとはいえない。国立公園の生物多様性を脅かす要因は複数あるが、なかでも公園内及び周辺に居住する地域住民による人的活動の脅威が大きな課題となっている。

ビズップ・ヌイバ国立公園の周辺においても、約5,067世帯（約2万6,028人）の住民が生活しており、その多くが少数民族に属し、伝統的な農業により生計を立てている。地域一帯の土地は森林が多くを占め農業用地が少ないことから、1世帯当たりの農業用地は狭く、加えて農業生産性が低いために、住民の貧困率は29％を超えるといわれている。こうした貧困を背景に、森林の農地転用、特にコーヒー農園の拡大による住民の同公園内森林への侵入、野生動物の狩猟、違法伐採、薪炭材採取等は現在も続いており、同公園の生物多様性は脅威にさらされている。

ベトナム政府は、上記課題に対処するためわが国に対し技術協力を要請すべく検討していたところ、2007年5月にプロジェクト形成調査が実施され、要請案件の枠組みに関する協議が実施された。

同調査結果を踏まえ、同国政府は、住民主導型エコツーリズムの実施、住民の生計向上、環境教育実施等を通じた国立公園の管理強化を内容とする同国立公園管理能力向上計画を策定し、2007年度、わが国に対しその実施に関する技術協力の要請を越し、2008年度新規案件として採択された。

同年12月には、要請内容を踏まえた詳細計画策定調査が実施され、本プロジェクトの協力内容に関しラムドン省人民委員会及びBNBNPMBなど先方関係機関と基本的に合意した。これに基づき、2009年9月24日、ハノイにて討議議事録（R/D）の署名・交換を行い、2010年1月よりプロジェクトが開始されている。

プロジェクト開始後およそ2年となる2011年11月、日本側レビューチーム（睦好団長）が派遣され、ベトナム側レビューチームと共に中間レビュー調査を実施し、これまでのプロジェクトの進捗と成果を確認、評価5項目に基づくレビューを行うと共に、今後の円滑なプロジェクトの実施のための提言を行った。

１－２．協力内容〈中間レビューによる改訂前〉

（1）**上位目標**：BNBNPMB が、対象村落の住民と協働して、国立公園の一部の自然資源管理を行う能力を身につけている。

（2）**プロジェクト目標**： BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。

（3）**アウトプット：**

1. プロジェクトで導入する2つのコンポーネント（住民主導型エコツーリズムと環境保全型生計向上手段）を運営する実施体制が構築される。
2. 公園の自然資源管理に関わる原則及び基本的なルールが、対象村落住民とBNBNPMBとの間で合意される。
3. 選定された地区において住民主導型エコツーリズム（CBET）のモデル事業が試験的に実施される。
4. 対象住民グループが受け入れられる環境保全型生計向上手段（EFLO）が開発され、村落内で普及される準備が整う。
5. 住民グループがプロジェクトで導入したCBETとEFLOを継続するために対応すべき課題と必要な活動が明らかとなる。

（4）投入（評価時点）

①日本側

専門家派遣　長期専門家派遣: 2 名　短期専門家派遣: 1 名

機材供与： 約 1,200 万円 ローカルコスト負担： 約 3,180 万円　研修員受入 7 名

②ベトナム側

カウンターパート人材の配置：19 名

土地・施設提供（専門家・プロジェクトスタッフ事務所、ビジターセンター他）

プロジェクト運営費：約 930 万円

２．レビュー調査団の概要

団員構成	日本側 （総括） 睦好絵美子 JICA　地球環境部 森林・自然環境保全第一課長 （貧困削減/ガバナンス）菅原鈴香 JICA 国際協力専門員 （公園管理） 柴田泰邦 環境省 九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所 統括自然保護企画官 （評価計画） 谷口光太郎 JICA 地球環境部 森林・自然環境保全第一課職員 （評価分析） 東野英昭 株式会社レックス・インターナショナル	ベトナム側 （総括） Mr. Bùi Văn Hùng ラムドン省農業農村開発局 副局長 （住民主導エコツーリズム） Dr. Vo Van Thoan ノンラン大学社会林学部前学部長 （環境保全型生計向上） Dr. Vo Van Thoan ノンラン大学社会林学部
調査期間	2011 年 11 月 16 日～12 月 3 日	

３．調査結果の概要

３－１．実績の概要

(1) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標:「BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。」

プロジェクト前半の達成状況は全体として満足できるものであり、プロジェクト目標:「BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。」は、プロジェクト期間の終了時までには、概ね達成されるものと判断する。（アウトプットの達成度については本文を、活動の達成状況は添付資料 5 を参照）

指標	達成状況
（指標 1） 対象住民グループと BNBNPMB の間で協働の合意がなされ、国立公園内の一部における自然資源管理の協定の草案がプロジェクト終了までに作成される。	自然資源管理の協定の草案は、2011 年 12 月時点ではまだ策定されていない。しかし、2011 年 4 月の村落規則作成や、CBET、EFLO コンポーネントでの活動を通じて、BNBNPMB と対象村落の住民との間に信頼関係が構築されつつある。中間レビューの時点では、協定草案の策定の基礎が築かれつつある段階であると考える。
（指標 2） プロジェクト終了までに、対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の草案が作成される。	対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の草案は、2011 年 12 月時点では策定されていない。 （今回のレビュー調査結果に基づく提言として、左記指標の修正を提言した）
（指標 3） プロジェクト活動に携わる BNBNP スタッフの 70% 以上が自然資源の協働管理モデルの実施方法を理解している。	EFLO コンポーネントの活動が開始されてからは、1 年未満、CBET の試行実施は、2011 年末から開始される予定であり、村落規則の執行についても今後開始される状況である。したがって、BNBNPMB スタッフは、協働管理モデルの実施経験を欠いており、日本人専門家による評価では、BNBNPMB スタッフの協働管理モデルの実施方法の理解度は低い。しかし、BNBNPMB スタッフとワーキンググループ（WG）メンバーは、プロジェクト開始時期に比べて、協働管理モデルの理解度を向上させており、プロジェクトの後半では、実戦経験を通じて、理解度を高めていくことが期待できる。

３－２．レビュー結果の要約

評価 5 項目に基づくレビュー結果は以下のとおりである。詳細については、本文第 4 章に記述している。

項目	レビュー結果	主な理由
妥当性	**高い**	(+) ベトナム、日本国両政府の政策との整合性 (+) 地域住民のニーズとの整合性
有効性	**高い～中程度**	(+) WG メンバーと BNBNPMB スタッフの能力の向上 (–) CBET コンポーネントの遅れ
効率性	**高い～中程度**	(+) 投入実績の適切さ (–) CBET コンサルタントの雇用の遅れ
インパクト（Prospect）	**正のインパクトが期待される。**	• 上位目標については、現行の指標での判断が難しい • 正のインパクト〈住民、公園管理政策、制度・組織〉の発現が見込まれる。 • 負のインパクトは今の所想定されない
自立発展性（Prospect）	**中程度**	(+) ベトナム政府の政策との高い整合性 (+) WG メンバーと BNBNPMB スタッフの能力の向上 (–) 組織間連携、土地・農業政策との調整の不確かさ

３－３．結論

BNBNPMB を初めとし、ラムドン省政府関連機関のスタッフは、さまざまな研修、計画策定と実施

への参画を通じて、日本人専門家からの指導を受け、ビズップ・ヌイバ国立公園の自然資源管理の協働管理に必要な知識とスキルを身につけつつある。しかし、独力で協働管理を行うまでの水準には至っておらず、これからの更なる能力の強化が必要であり、プロジェクト期間の後半における、より主体的なプロジェクト活動への参加が重要である。

中間レビューの時点では、自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の作成はまだ着手されていないが、村落規則の作成や、CBET、EFLO コンポーネントでの活動を通じて、BNBNPMB と対象村落の住民との間に、信頼関係が構築されつつあり、協定草案準備の基礎が築かれている段階であると考える。

CBET 関連の活動では、インフラストラクチャー面での整備が進められており、一部は完了している。組織面では、2011 年 4 月に　BNBNPMB 内にエコツーリズム及び環境教育センター（CEEE）が設立され、CBET コンポーネント実施の中核として機能することが期待されている。また、CBET 活動に参加する予定の住民に対する研修が進められてきた。

さらに、ダラット市内に拠点を置く、旅行業者との交渉が開始されており、中間レビューの時点で、11 社との業務協定が結ばれているほか、ビジターセンターとエコツーリズムの実施と管理に関するマニュアル（入園料金など祖諸規則を含む）が準備されており、2011 年 12 月中旬には完成される予定である。

EFLO コンポーネントでは、農産物の生産を向上する技術研修の他に、環境保全型の栽培方法、例えば、有機肥料の生産方法、毒性の低い殺虫剤の導入、残留農薬の削減などに力を入れている。また、篤農家だけでなく、平均、あるいは貧困層の農家も参加している。

現在の所、コミュニティメンバーの 128 名が、さまざまな活動に参加している。活動は、指導者訓練（TOT）（指導者要請）、農民学校（FFS）、農民から農民への普及（FF）、実践重視の普及（PBE）などである。

中間レビュー時に、プロジェクトが行った 98 名を対象とした調査では、およそ 60%のコミュニティメンバーが、EFLO の活動で学んだ栽培技術を、自分たちの農地で実践しているという結果であり、活動が着実に住民に浸透していることが確認出来た。

これらの事から、プロジェクト前半の達成状況は全体として満足できるものであり、プロジェクト目標：「BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。」は、プロジェクト期間の終了時までには、おおむね達成されるものと判断する。

３－４．提言

【合同調整委員会（JCC）と省運営委員会（PSC）に対する提言】

（1） プロジェクトデザインマトリックス（PDM）の変更

現行の PDM 〔version 2.0（2011 年 3 月 18 日作成）〕の修正を次回の JCC において行うことにつき、PSC の理解を求める。合同レビューチームは、レビュー結果に基づきプロジェクトに対して、PDM の変更を提言し、PDM 改定案（添付資料 6）は、プロジェクトの、より効果的な実施と目的の達成に寄与すると判断するものである。主な変更点は以下のとおりである。

a. プロジェクト目標の指標 2:「プロジェクト終了までに、対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の草案が作成される。」は、「村落規則、CBET、EFLO を含む協働管理活動の継続的な実施のための政策的提言が州政府に対してなされる。」と変更する。これに伴い、PDM の活動 5-3 も変更を行う。

b. 上位目標の指標 2:「プロジェクト終了後 3 年以内に、対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）が州人民委員会で承認される。」を「対象住民グループと BNBNPMB が国立公園の自然資源を協働管理するために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）に、プロジェクトの政策提言が反映されている。」に変更し、上に述べたプロジェクト目標の指標と整合性を取る。

c.アウトプット 2 の指標「2-2. 公園内における自然資源利用の原則と規則がプロジェクト開始後 15 カ月以内に、参加型で定められる。」を、村落規則の執行を確実にするために、「2-2. 公園内における自然資源利用の原則と規則がプロジェクト開始後 15 カ月以内に、参加型で定められ、村落規則管理チームが規則の施行に関連する何らかの活動を行っている。」と変更する。

d.アウトプット3の指標「3-2. BNBNPMBと森林保護の契約を結んでいる世帯の10 %以上がCBETに参加する。」を「3-2. 対象村落の世帯の 5% 以上がCBETコンポーネントに参加し、何らかの収入を得ている。」と変更し、更に「3-3. 15以上の旅行業者がBNBNPMBとの間で、CBET活動に参加するための協定書に調印している。」を追加する。これは、森林保護活動参加者のみがCBETの試行的実施のターゲットグループではないこと、また、試行的実施にとって旅行業者が重要な位置を占めているからである。

e. アウトプット４の指標「4-1. 住民グループの 70 % 以上のメンバーが EFLO を受け入れる見込みが立つ。」を「4-1. 対象 5 カ村の住民グループの 70 % 以上のメンバーが、EFLO コンポーネントで導入した環境保全型生計向上手段のうち、少なくとも 1 つを採用しており、50%以上の EFLO 活動参加者が、栽培している作物の生産量の増加、あるいは単価の向上を達成する。」と変更する。これは、生計向上手段の受入れの割合だけでは、生計の向上が判断できないからである。

注 :「EFLO 活動参加者」 とは、FFS、FF、PBE など、プロジェクトが主催する活動への参加者。

f. 新たな活動として 1-1-4、2-2-4、2-3、3-4-9、4-3a-5、4-3a-6 及び 4-3a-7 を加え、アウトプット達成までの過程を明確にする。

g. 協働管理を表す用語として *co-management* に代えて、*collaborative management* を用いて、住民と協働して行う国立公園における自然資源管理であることを明確に示す。

(2)「国立公園」の意味について

PDM における「国立公園」は、公園内とプロジェクトで対象とするバッファーゾーンであると解釈する。2008 年 11 月から 12 月にかけて実施された詳細計画策定調査の時点で、対象村落の候補として想定していた Da Chays コミューンの村落のいくつかは、公園のコアゾーンに位置している。しかし、対象村落の絞り込みの過程で、公園内の村落は、アジア開発銀行（ADB）の中部高原地域における生計向上のための森林プログラム（FLITCH）プロジェクトの対象地区であることが判明した。援助の重複を避けるために、これらの村落は JICA プロジェクトの対象地域から除外した経緯がある。結果として、バッファーゾーンにある 5 村落がプロジェクトの対象村落となった。したがって、地域住民による自然資源管理とは、公園内のコアゾーンだけでなく、バッファーゾーンにも当てはまるものとする。

(3) 流域管理事務所の EFLO ワーキンググループへの参加

ダニム･コミューンの流域管理事務所を EFLO の WG に参加させること。

【プロジェクトへの提言】

(1) 協働管理の協定

協働管理協定合意までの過程と、協定の内容を詰めていく際に、住民の義務のみを求めるのではなく、住民の生活の現状について十分に留意して、BNBNPMB、コミューン人民委員会、郡人民委員会の果たすべき責任についても考慮していくことが求められる。

(2) 村落規則

対象村落の住民が起案し､2011 年 11 月に対象コミューン/タウンシップ人民委員会に承認された自然資源管理に関する村落規則の普及の施行である。当該の規則について、村人、レンジャー、BNBNPMB 関係者、ダニム･コミューン流域管理事務所関係者のすべてが、村人の義務と利益について理解するように周知徹底すること、及び規則の現地語訳（コホ語）が有効と考える。村落規則管理チームの能力強化担当として、WG メンバーを任命することとする。

(3) CBET

CBET の試行的実施に際し、以下の事項を留意すること。

- ビジネスセクター、コミューン、BNBNPMB､その他の関係機関を含むプロジェクトの関係者間の円滑な連携と、効果的な役割･責任分担によって、さまざまなニーズと関心（来訪者の満足、住民の利益、ビジネスセクターのビジネスチャンス、公園の資源保護を、すべて満たす win-win の関係を構築する）を的確に調整すること。
- CEEE の能力強化を行うこと。同センターは、BNBNPMB 内の、エコツーリズムと環境教育の運営管理の中核組織である。
- EFLO 活動と地域コミューン内のアグロツアー、土産物作りとの連携を模索すること。

（4） EFLO

a. EFLO 活動が、耕作地の拡大抑止の点で、どの程度の効果を持つのかを検証する。EFLO 参加世帯について、ディジタルマップを用いた土地利用変化と、生産量の変化を追跡調査すること。

b. BNBNPMB と州農業普及センター、郡農業センターの間の連携の強化を通じて、EFLO 活動の自立発展性を確保すること。

c. クレジットへのアクセス、農産物加工、マーケティングなどの手段を通じて、EFLO の収益性を改善する方法を模索すること。参加者の異なった区分（富裕、平均、貧困層）に応じた手段を検討する。食糧不足の影響を受ける人々には、特段の配慮が求められる。

d. 活動参加者の異なる区分（富裕層、平均、貧困層）別に、コーヒー生産の収量と価格の両者、あるいは一方についての変化をモニターすること。このデータによって、プロジェクトは EFLO のインパクトを正確に評価することが可能となり、貴重な教訓を導き出すことが期待される。

e. 栽培時期を考慮して適切な時期に研修を行い、農民が学んだ技術を時間を空けずに応用できるように配慮すること。

（5） ワークショップや現場視察を中央政府と他のドナーのために実施し、関連する政策にプロジェクトの知見が反映されるようにすること。

（6） プロジェクト終了時までに達成すべき内容の共通理解

プロジェクト終了時までの達成状況のイメージとして、専門家、カウンターパート、WG のメンバーの間で、CBET、EFLO、協働管理の各コンポーネントについて、達成すべき内容について、理解を共有すべきである。具体的な内容については、本文の第 6 章を参照されたい。

【ラムドン省政府と BNBNPMB に対する提言】

（1） バッファーゾーンの管理の役割分担 （BNBNPMB と DARD）

公園のよりよい管理のためにバッファーゾーンの境界を明確にすべきである。

（2） 予算の確保〔省人民委員会（PPC）〕

プロジェクト終了後の CBET と EFLO に対する予算措置に最善を尽くすこと。BNBNPMB の能力に見合った活動内容を注意深く検討し、計画を策定すること。

（3） 政策策定への情報提供（BNBNPMB）

FLITH プロジェクトと積極的に意見を交換し､JICA プロジェクトで取ってきたアプローチが、現在 DARD 下の森林管理事務所によって策定中の「国立公園エコツーリズム開発マスタープラン（National Park Ecotourism Development Master Plan）」の中に組み込まれるようにすること。

（4） CBET の制度設計と実施 （BNBNPMB）

CBET の構想と実施の時点で、エコツーリズムで見込む収入や、その他の利益を、地域コミュニティに対して適切に分配することを検討する。特に少数民族コミュニティなど、低所得者層への配慮が必要である。CEEE の得る利益の一部を、国立公園の自然資源保全や地域の生計向上のために活用する努力が求められる。

（5） 地域コミュニティの土地利用について（DARD）

EFLO の活動は、限られた世帯のみが農地の公式の所有権（Red Book/赤色証書）を認められているなかで行われているのが現状である。EFLO 活動の有効性と継続性を確保するために、地域の人々の土地利用権の確保を検討するべきである。

（6） 森林保護（PPC）

州の関係者に対して、森林管理と保護の手段を強化し、プロジェクト対象地域の景観を保全･回復し、エコツーリズムの価値と魅力を高めるべきである。

（7） 栽培技術 （DARD）

地域の人々の生計向上とエコツーリズム付加価値を両立させる農業技術研究を進めること。

（8） ドナー協調（BNBNPMB）

ドナー間の更なる調整を目指すこと。JICA、ADB、世界自然保護基金（WWF）については、現在 BNBNPMB を支援中、あるいは支援する計画を有しているので、援助の重複を避け、効率化と効果の最大限の発揮を目指すべきである。

（9） 新村落開発プログラムを BNBNPMB の活動への組み込み

ベトナム側レビューチームメンバーは、新村落開発プログラム（New Rural Area Program）をBNBNPMBの活動への組み込むべきであるとの提言を行った。

【MARDに対する提言】

プロジェクトで得た協働管理に関する知見と、用いられたアプローチについて、「保護地域の管理戦略2010」の後継戦略（現在策定中）も含め、関連する政策に反映すること。

【JICAに対する提言】

（1） 専門家の追加派遣

エコツーリズム、マーケティング等の分野の短期専門家を、必要に応じて、プロジェクトの後半に投入し、プロジェクト目標の達成を図ること。

（2） 海外青年協力隊との連携（JOCV）

プロジェクトと、BNBNPMBに派遣予定の海外青年協力隊隊員（環境教育隊員と村落開発隊員）間の連携によって相乗効果をもたらし、関係者のすべてが利益を得るように図ること。

（3） 研修機会

地域の人材を対象として、他のアジア諸国におけるCBETの経験とスキルを学ぶ機会を、これまで以上に与えるよう検討すること。

（4） 永久調査区の設置支援

公園内のコアゾーンにおける生物多様性のモニターのために、永久調査区設置計画への支援を検討すること。

（5） 協働管理活動に対する一層の支援

ベトナムトにおける国立公園管理のモデルを形成すべく、CBETを含むプロジェクトの協働管理活動に更なる支援を検討すること。

第１章　プロジェクトの概要

１－１　背景

ビズップ・ヌイバ国立公園（Bidoup-Nui Ba National Park：BNBNP）は、ベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」と記す）ラムドン省の北東部に位置し、総面積は日本の尾瀬国立公園の約2倍に相当する7万38haとベトナム国内でも有数の大きな保護区である。1986年に自然保護区として指定されたあと、2004年に国立公園に昇格した。周囲にある3つの自然保護区（北部にChu Yang Sin国立公園、東部にPhuoc Binh国立公園、南部にLam Vien景観保護区）の中心に位置することから、これら3つの保護区を結ぶ回廊（コリドー）としての役割も有し、この地域一帯の生物多様性保全にとって極めて重要な価値を持っている。

また、同公園は亜熱帯高山気候の多様な森林生態系を有し、山地熱帯降雨常緑林、針広混交林、高山低木林、低山針葉樹疎林、コケ林、竹広混交林が分布する。その豊富な森林資源のために、同公園には多様性に富んだ動植物相が生息している。2009年の調査結果によると、1,923種の植物（うち96種が固有種）と422種の動物〔うち32種が国際自然保護連合（International Union of Conservation of Nature and Natural Resources：IUCN）のレッドリストに記載されている〕が確認されている。また同公園は野鳥保護区としても有名で、地域固有種の鳥類が生息することで世界的に認められている221カ所の地域のうちの1つに指定されている。

世界的にも生物多様性が豊かなベトナム において、自然保護区の核となる国立公園を適切に管理する能力の向上は、貴重な生物多様性を保全する上で不可欠となる長期的な課題である。ベトナム政府は、2003年に保護区管理のあり方を示す*Management Strategy for a Protected Area System in Vietnam to 2010*を策定したほか、2000年以降に18カ所の国立公園を指定するなど、国立公園を中核に生物多様性保全のための具体的な施策を実施している。しかし、政府による国立公園管理のための技術的及び予算的な支援は限られており、多くの国立公園では現場レベルでの管理を十分に行っているとはいえない。国立公園内の生物多様性を脅かす要因は複数あるが、なかでも公園内及び周辺に居住する地域住民による人的活動の脅威が大きな課題となっている。

BNBNPの周辺においても、約5,067世帯（約2万6,028人）の住民が生活しており、その多くが少数民族に属し伝統的な農業により生計を立てている。地域一帯の土地は森林が多くを占め農業用地が少ないことから、1世帯当たりの農業用地は狭く、加えて農業生産性が低いために、住民の貧困率は29%を超えると言われている。こうした貧困を背景に、森林の農地転用、特にコーヒー農園の拡大による住民の同公園内森林への侵入、野生動物の狩猟、違法伐採、薪炭材採取等は現在も続いており、同公園の生物多様性は脅威にさらされている。

ベトナム政府は、上記課題に対処するためわが国に対し技術協力を要請すべく検討していたところ、適切な要請書が同国政府から提出されるように2007年5月にプロジェクト形成調査が実施され、要請案件の枠組みに関する協議が実施された。同調査結果を踏まえ、同国政府は、住民主導型エコツーリズム（Community Based Eco-Tourism：CBET）の実施、住民の生計向上、環境教育実施等を通じた国立公園の管理強化を内容とする同国立公園管理能力向上計画を策定し、2007年度、わが国に対しその実施に関する技術協力の要請をし、2008年度新規案件として採択された。今般、要請内容を踏まえ2008年12月に詳細計画策定調査を実施し、本プロジェクトの協力内容に関しラムドン省人民委員会（Provincial Peoples' Committee：PPC）及びBNBNP管理事務所

（Bidoup-Nui Ba National Park Management Board：BNBNPMB）等先方関係機関と基本的に合意した。これに基づき、2009 年 9 月 24 日、ハノイにて討議議事録（Record of Discussions：R/D）の署名・交換を行い、2010 年 1 月よりプロジェクトが開始された。

プロジェクト開始後およそ 2 年が過ぎた 2011 年 11 月、日本側レビューチーム（睦好団長）が派遣され、ベトナム側レビューチームと共に中間レビュー調査を実施した。これまでのプロジェクトの進捗と成果を確認し、評価 5 項目に基づくレビューを行うとともに、今後の円滑なプロジェクトの実施のための提言を行った。

１－２　プロジェクトの要約

2011 年 3 月の合同調整委員会で承認されたプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）Version 2.0（添付資料 1）に基づくプロジェクトの要約は以下のとおりである。

プロジェクト名: BNBNP 管理能力強化プロジェクト

協力期間: 2010 年 1 月～2013 月 12 月（4 年間）

対象地域: BNBNP 境界周辺の 5 村落

ターゲットグループ: BNBNPMB、ラムドン省農業農村開発局（Department of Agriculture and Rural Development：DARD）、対象 5 村落

上位目標: BNBNPMB が、対象村落の住民と協働して、国立公園の一部の自然資源管理を行う能力を身につけている。

プロジェクト目標:BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。

アウトプット

1. プロジェクトで導入する 2 つのコンポーネント〔CBET と環境保全型生計向上手段（Ecologically Friendly Livelihood Options：EFLO）〕を運営する実施体制が構築される。
2. 公園の自然資源管理に関わる原則及び基本的なルールが、対象村落住民と BNBNPMB との間で合意される。
3. 選定された地区において CBET のモデル事業が試験的に実施される。
4. 対象住民グループが受け入れられる EFLO が開発され、村落内で普及される準備が整う。
5. 住民グループがプロジェクトで導入した CBET と EFLO を継続するために対応すべき課題と必要な活動が明らかとなる。

主な活動

1-1　対象村落でのCBETとEFLO実施のためのワーキンググループ（Working Group：WG）を組織する。

1-2　WG に対する研修を実施しプロジェクト実施のための能力を強化する。

2-1　対象村落のコミュニティと連携し村落の現状を参加型で評価する。

2-2　対象村落のコミュニティと連携し、村落の自然資源利用の原則と規則を定める。

3-1　CBETコンポーネントの現場活動実施のパートナーを選定する。

3-2　対象村落での CBET の試験的実施計画を策定する。

3-3　潜在的な環境への影響を評価し、3-2 で述べた活動実施計画に対策を盛り込む。

3-4　CBET コンポーネント実施のための体制を構築し、組織化された住民グループの CBET 実施能力を強化する。

3-5　CBET の試験的実施を行う。

3-6　CBET コンポーネントの実施結果を評価する。

4-1　対象村落において導入するEFLOの内容を決定する。

4-2　対象村落におけるEFLO導入のための活動計画（Plan of Operations：PO）を同定する。

4-3a　（手段としてコーヒーなど農業生産の改善が選ばれた場合）篤農家の圃場で農民学校（Farmer Field School：FFS）等の実施研修を実施する。

4-3b[1]　（手段として民芸品製作など家内工業が選ばれた場合）生計向上手段に関する実地研修を開催する。

4-4　プロジェクトのコンポーネントについて評価を実施する。

4-5　生計手段を村落内と他の村落に普及・促進計画を策定する。

5-1　評価結果に基づき（3-6、4-4）、対象村落がCBETとEFLOを継続するための支援手段を明らかにする。

5-2　BNBNPMBと対象住民グループ間の合意文書を検討する。

5-3　協働管理の継続を支援するために、省政府レベルの政府文書案を検討する。

[1]活動 4-3b は、2011 年 3 月の第 2 回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）で削除することが承認された。

第２章　プロジェクトのレビュー

２－１　目的

中間レビューの目的は以下のとおりである。

(1) プロジェクトの進捗を、PDM と PO（添付資料 2）を基にして確認すること。

(2) プロジェクト実施上の問題点や課題を明確にすること。

(3) PDM を見直し、必要であれば改定を行なうこと。

(4) 評価 5 項目（妥当性、効果、効率性、インパクト、自立発展性）を用いてプロジェクトの達成の度合いを評価すること。

(5) プロジェクト目標を達成するために必要な協力期間終了時までの活動と対策について提言を行うこと。

２－２　方法

２－２－１　レビューの方法

日本側、ベトナム側レビューチームが合同で、プロジェクトの実績について、プロジェクト報告書などの文献調査、実地調査、プロジェクト関係者への聞き取り等を通じて確認した。この結果を PDM の指標と比較・分析し、評価 5 項目に基づいてレビュー結果をとりまとめた。

２－２－２　調査団メンバー

(1) 日本側レビューメンバー

氏名	担当業務	所属・職位	期間
睦好　絵美子	総括	JICA　地球環境部 森林・自然環境保全第一課長	11 月 25 日 ～12 月 3 日
菅原　鈴香	貧困削減／ガバナンス	JICA　国際協力専門員	11 月 26 日 ～12 月 3 日
柴田　泰邦	公園管理	環境省　九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所 統括自然保護企画官	11 月 23 日 ～12 月 3 日
谷口　光太郎	評価計画	JICA　地球環境部 森林・自然環境保全第一課　職員	11 月 23 日 ～12 月 3 日
東野　英昭	評価分析	㈱レックス・インターナショナル シニアコンサルタント	11 月 16 日 ～12 月 3 日

(2) ベトナム側レビューチーム

氏名	担当業務	所属・職位	期間
Mr. Bùi Văn Hùng	総括	ラムドン省DARD 副局長	11 月 25 日 ～12 月 1 日
Dr. Vo Van Thoan	EFLO	ノンラン大学社会林学部 前学部長	11 月 25 日 ～12 月 1 日
Dr. Le Quang Thong	CBET	ノンラン大学社会林学部	11 月 25 日 ～12 月 1 日

２－３　レビュー日程

合同レビューチームは、11 月 16 日から 12 月 2 日までの 17 日間、ダラットを中心に以下の活動を行った。

日順	月日	活動	宿泊地
1	11 月 16 日（水）	【東野】 09:30 東京/成田発（VN301）→13:40 ホーチミン着 17:10 ホーチミン発（VN1386）→18:00 ダラット着	ダラット
2	11 月 17 日（木）	カウンターパート(C/P)、CBET・EFLO 各 WG メンバー等との面談 ● プロジェクト専門家 ● BNBNPMB ● ラムドン省 DARD ● ラムドン省農業普及センター（PAEC） ● ラムドン省天然資源環境局（DONRE） ● ラムドン省文化スポーツ観光局（DOCST） ● ダニム・コミューン人民委員会（CPC） ● アジア開発銀行（ADB）中部高原地域における生計向上のための森林プログラム（FLITCH）プロジェクト等	ダラット
3	11 月 18 日（金）		ダラット
4	11 月 19 日（土）	資料作成	ダラット
5	11 月 20 日（日）	【東野】資料作成 【菅原】（11 月 20 日～25 日　別件用務） 10:00 東京/成田発（VN311）→14:40 ハノイ着 16:30 ハノイ発（VN1565）→18:10 ダラット着	ダラット
6	11 月 21 日（月）	【東野】面談継続	ダラット
7	11 月 22 日（火）	【東野】面談継続	ダラット
8	11 月 23 日（水）	【柴田】10:55 那覇発（JL3098）→13:20 東京/成田着 【柴田・谷口】 18:00 東京/成田発（VN3311）→22:25 ハノイ発 【東野】面談継続	【柴田、谷口】ハノイ 【東野】ダラット
9	11 月 24 日（木）	【柴田・谷口】 08:00～09:15 農業農村開発省（MARD）表敬 09:15～10:30 森林プログラムアドバイザー〈北村専門家〉打合せ 11:00～14:30 JICA ベトナム事務所 16:30 ハノイ発（VN1565）→18:10 ダラット着	ダラット
10	11 月 25 日（金）	【睦好】 10:00 東京/成田（VN311）→14:40 ハノイ着 16:30 ハノイ発（VN1565）→18:10 ダラット着 【菅原、柴田、谷口、東野】 08:30～09:30　プロジェクト関係者キックオフ会議 09:30～11:00　プロジェクト専門家打合せ【菅原、谷口、東野】 10:00～11:30　公園事務所所長打合せ【柴田、谷口】 10:30～11:30　ベトナム側レビューチームとの打合わせ【東野】	ダラット

		13:00～17:00　ダニム・コミューン視察【菅原】	
11	11 月 26 日（土）	08:00～15:00　現場視察（ダニム・コミューンのコーヒー農園、FFS 活動、ビジターセンター、公園管理事務所新庁舎、トレイル）	ダラット
12	11 月 27 日（日）	08:00～22:30　団内打合せ、報告書作成	ダラット
13	11 月 28 日（月）	08:00～12:00 ベトナム側レビュー団員との打合せ 15:00～17:00 ベトナム側レビュー団員との打合せ 19:00～24:00 団内打合せ、報告書作成	ダラット
14	11 月 29 日（火）	08:00～12:00 プロジェクトとの協議 14:00～14:30 ラムドン PPC 表敬 15:00～17:00 団内打合せ、報告書作成	ダラット
15	11 月 30 日（水）	08:00～12:00 プロジェクトとの協議 08:00～11:00 公園管理事務所面談【柴田】 14:00～16:00 プロジェクト専門家打合せ【睦好、谷口】	ダラット
16	12 月 1 日（木）	08:30−12:00 州合同調整委員会 16:50 ダラット発（VN1564）→18:30 ハノイ着	ハノイ
17	12 月 2 日（金）	10:00−11:00 天然資源環境省（MONRE）報告 16:00−17:00 JICA 事務所報告	（機内）
18	12 月 3 日（土）	【睦好、菅原、谷口、東野】 00:10 ハノイ発→07:00 東京/成田着 【柴田】 00:05 ハノイ発→06:30 名古屋着 08:30 名古屋発→1:00 那覇着	

第３章　プロジェクトの達成状況

３－１　投入実績

３－１－１　日本側

2009 年 9 月 24 日にハノイで署名された R/D に則り、2 名の長期専門家が派遣された。また、エコツーリズム分野で、1 名の短期専門家が 2011 年 9 月から、およそ 1 カ月間派遣された。

(1) 日本人専門家の派遣状況　（添付資料 3）

表１　日本人専門家の派遣状況〈2010 年 1 月～2011 年 11 月末〉

分類	専門分野	派遣期間
長期専門家	チーフアドバイザー/協働管理	18.9 M/M
長期専門家	業務調整/コミュニティ開発	18.7 M/M
短期専門家	エコツーリズム	0.9 M/M （2011.9.15-2011.10.13）

(2)　本邦研修

これまでに合計 7 名のプロジェクト関係者が本邦研修に参加した。

表２　本邦研修

氏名	期間	研修分野と受け入れ先
Mr. Ton That Minh （プロジェクトマネージャー2011.8 迄）	2010 年 11 月 14 日から 12 月 4 日まで （3 週間）	SATOYAMA イニシアティブ: 天然資源の持続的な管理を通じた生物多様性保全と村落開発/自然環境研究センター（JWRC）
Ms. Vu Hanh Dung （EFLO WG）	2010 年 11 月 28 日から 12 月 20 日まで （3 週間）	ベトナムの道の駅のためのコミュニティ能力と村落開発機能の強化/名古屋大学
Mr. Ton Thien An （EFLO WG）	2011 年 8 月 9 日から 9 月 23 日まで （1.5 カ月）	地域農家の参加を通じた総合農業・村落開発/筑波国際センター
Mr. Le Van Huong 〈プロジェクトダイレクター〉	2011 年 10 月 20 日から 11 月 4 日まで （2 週間）	エコツーリズム/日本エコツーリズム協会
Mr. Nguyen Luong Minh 〔プロジェクトセクレタリー/エコツーリズム･環境教育センター（CEEE）長)〕	2011 年 10 月 20 日から 11 月 12 日まで （0.8 カ月）	エコツーリズム/日本エコツーリズム協会
Mr. Tran Nhat Tien （CBET WG）	2011 年 10 月 20 日から 11 月 12 日まで （0.8 カ月）	エコツーリズム/日本エコツーリズム協会
Mr. K' Vang （CBET WG）	2011 年 10 月 20 日から 11 月 12 日まで （0.8 カ月）	エコツーリズム/日本エコツーリズム協会

(3) 資機材供与

これまでに総額 15 万 3,424 米ドル（円貨換算およそ 1,200 万円、USD1.0=JPY78.0 として換算）相当の資機材がベトナム側に供与された。主要な資機材は表 3 に示すとおりである。

表 3　資機材供与　(*)

	項目	数量	2009 年度（2010.1-2010.3）	2010 年度（2010.4-2011.3）	合計
1	車両	2		$88,980.0	$88,980
2	オートバイ	4		$3,778.0	$3,778
3	ラップトップ PC	17	$6,545.9	$5,538.0	$12,084
4	デスクトップ PC	5	$591.7	$2,322.2	$2,914
5	デジタルカメラ	15	$1,724.0	$2,924.7	$4,649
6	デジタルビデオ	2	$1,824.7	$0.0	$1,825
7	プロジェクター	2		$2,878.2	$2,878
8	GPS	16	$1,780.3	$5,383.2	$7,163
9	複写機	3	$5,476.9	$265.9	$5,743
10	TV（フラットスクリーン）	1		$1,320.0	$1,320
11	双眼鏡	2		$1,826.3	$1,826
12	金庫	1	$282.0	$0.0	$282
13	草刈り機	40		$10,286.0	$10,286
14	噴霧器	32		$9,696.0	$9,696
	合計		$18,225.5	$135,198.5	$153,424

(*) 2 万円以上の項目のみ。

(4) 現地業務費負担

2011 年 11 月の時点で、日本側が負担した現地業務費の合計は約 40 万 7,890 米ドル（円貨換算およそ 3,180 万円。USD1.0=JPY78.0 として換算）である。

表 4　Local Expenditure

	Item	2009 年度（2010.1 - 3）	2010 年度（2010.4 - 2011.3）	2011 年度（2011.4 - 2011.11）	合計
1	一般	$21,422.26	$111,830.77	$17,922.8	$151,175.8
2	旅費	$363.02	$27,176.14	$4,310.5	$31,849.7
3	人件費	$4,093.52	$40,085.83	$41,919.3	$86,098.6
4	会議費	$1,419.22	$1,077.08	$0.00	$2,496.3
5	ローカルコンサルタント[2]	$0.00	$104,614.28	$26,568.6	$131,182.9
6	建設費	$0.00	$3,464.05	$1,621.4	$5,085.5
	合計	$27,298.02	$288,248.15	$92,342.6	$407,888.7

[2] 1 名の国際コンサルタント（CBET）を含む。

３－１－２　ベトナム側

(1)　ベトナム側 C/P 及び WG メンバー配置（添付資料 4）

2010 年 4 月に、最初のベトナム側メンバー12 名がプロジェクトに配置された。C/P スタッフ 4 名と、CBET 及び EFLO コンポーネントにそれぞれ 4 名ずつであった。この人数は、中間レビュー時には、人数は、C/P スタッフが 6 名、CBET コンポーネントの WG6 名、EFLO コンポーネントの WG 7 名の合計 19 名と増加した。

表５　ベトナム側 C/P 及び WG メンバー

時期	2010 年 4 月	2011 年 11 月
C/P スタッフ	4	6
CBETWG	4	6
EFLOWG	4	7
合計	12	19

(2)　土地、建物、設備

執務室、建物、施設

専門家とプロジェクトスタッフの執務室としてラムドン省、ダラット市内の公園管理事務所の 2 階に、広さ 15m^2 と 13m^2 の 2 部屋が提供されているが、やや手狭である。公園管理事務所は、2012 年 4 月に、ダニム・コミューンの新庁舎に移動することになっているため、プロジェクトの専門家とスタッフの執務スペースは、ダラットの現事務所の建物内で確保しやすくなるとみられる。

執務室内の什器備品（机、椅子、書架等）はベトナム側が提供したものである。

(3)　プロジェクト運営費（C/P ファンド）

ベトナム側がこれまでに執行した、あるいは執行予定の C/P ファンドは表 6 に示すとおりである。

表６　C/P ファンド

年度	金額　（VND）
2010　（2010.1-12）	695,122,000
2011　（2011.1-12）	1,799,751,910
合計	2,494,873,910

25 億 VND は円貨換算にして、およそ 930 万円である。（JPY1.0 = VND 270）.

プロジェクトダイレクターによれば、C/P ファンドは、終了時の 2013 年 2 月まで、合計 39 億 2,700 万 VND（円貨換算およそ 1,460 万円）が既に予算枠として承認されている。また、ビジターセンターへのアクセス道路の建設費用、約 8,000 万円が来年度の予算として既に確保されているとのことであった。

３－２　主な活動の進捗

活動の達成状況は、添付資料 5 にとりまとめたとおりである。

３－３ アウトプットの達成状況

プロジェクト期間前半のアウトプットの達成状況は、以下のとおりである。

アウトプット1: プロジェクトで導入する2つのコンポーネント（CBETとEFLO）を運営する実施体制が構築される。

指標: 1-1） WGがプロジェクト開始3カ月以内に組織される。

CBET と EFLO の WG は、プロジェクト開始 3 カ月後の 2010 年 3 月に組織された。初期のメンバーとして、8 名が任命された。内訳は BNBNPMB から 4 名、文化・スポーツ・観光局から 2 名、郡 PAEC から 1 名、DARD の森林部門から 1 名であった。

指標: 1-2） WG メンバーの能力がプロジェクトによる一連の研修で強化される。

WG メンバーの能力強化は、徐々にではあるが、さまざまな研修や、計画策定と実施への参加によって、着実に進められている。

表 7 と表 8 に示す能力評価は、CBET と EFLO に必要な基本的な能力について、日本人専門家の観察を基に、活動に常時参加しているメンバーを対象にして、5 段階で評価したものの平均値である。

表７　CBET WG メンバーの能力の向上度合い

グレード／必用な能力	2010 年 5 月の平均値	2011 年 11 月の平均値
1. コミュニケーション能力	**2.3**	**3.3**
2. エコツアーガイド	**2.2**	**3.0**
3. 環境解釈	**2.3**	**3.3**
4. 応急手当	**2.0**	**3.0**
5. 地図と GPS	**3.5**	**3.8**
6. 英会話能力	**2.3**	**4.3**

表８　EFLO WG メンバーの能力の向上度合い

グレード 必用な能力	2010 年 5 月の 平均値	2011 年 11 月の 平均値
1. 情報収集と分析・評価	**2.8**	**3.9**
2. 栽培システム実習〈栽培と畜産〉	**3.0**	**3.9**
3. EFLO の理解と現場での観察力、地域特有の状況の理解	**3.0**	**3.9**
4. コミュニケーションスキルとファシリテーション	**2.8**	**3.6**
5. 研修実施計画と管理能力	**2.9**	**3.6**
6. チームワークと調整能力	**2.9**	**4.0**
7. 意欲、コミュニティ文化への理解と対応	**3.0**	**3.8**

*：評価基準は以下のとおり。
1. コンセプトの理解、実践経験とも限られている。
2. コンセプトの理解はあるが、実践経験が不足している。
3. 関連の活動が支援を受けて実施できる。
4. 関連の活動が支援を受けずに行える。
5. 関連の活動が自信をもって、また、自分のスタイルで実施できる。

聞き取り調査によれば、WG グループの中には、自らの部署の業務との両立が難しく、プロジェクトの活動に常時参加することが出来ないメンバーもいる。

研修の他には、表９に示すように視察旅行が実施された。参加者は、エコツーリズムに関する知識を得たこと、また、視野を広げるのに役立ったことを評価している。

表９　視察旅行

行き先	実施時期
CAT TIEN 国立公園（DONG NAI 省）	2010 年 5 月 10 日～11 日
GUNUNG HALIMUN SALAK 国立公園（インドネシア　西ジャワ州） Gunung Gede Pangrango 国立公園（インドネシア　西ジャワ州 ） CFET（Centre for Forestry Education and Training）	2010 年 7 月 18 日～26 日
YOK DON 国立公園（DAK LAK 省）	2010 年 10 月 25 日～27 日
BACH MA 国立公園（THUA THIEN-HUE 省）	2011 年 1 月 4 日～5 日
PHONG NHA-KE BANG 国立公園（QUANG BINH 省）	2011 年 1 月 6 日～8 日
SAPA and HOANG LIEN国立公園（LAO CAI省） MAI CHAU国立公園（HOA BINH省）	2011 年 2 月 12 日～17 日

アウトプット 2: 公園の自然資源管理に関わる原則及び基本的なルールが、対象村落住民とBNBNPMB との間で合意される。

指標: 2-1） 対象村落の基本情報（現状のリソースマップを含む）が参加型手法で収集されプロジェクト開始から9カ月以内にとりまとめられる。

対象村落のベースライン調査（Base Line Survey : BLS）が 2010 年 4 月から実施され、村落の実態が明らかとなった。

その結果は、プロジェクト開始半年後の同年 7 月に報告書としてとりまとめられた。

また、農業ベース/非農業ベースの生計、森林資源管理、国立公園内の土地利用状況などについての状況をより正確に把握するために、参加型農村調査法（Participatory Rural Appraisal : PRA）による対象村落の調査がノンラム大学によって 2010 年 8 月に実施された。ダニム・コミューンについては、調査結果のサマリーが 2010 年 11 月〈プロジェクト開始後 10 カ月〉に提出されたが、対象村落での結果も含めた最終報告書のとりまとめは、2011 年 2 月となった。

指標: 2-2）公園内における自然資源利用の原則と規則がプロジェクト開始後 15 カ月以内に、参加型で定められる。

プロジェクト開始後 14 カ月目となる 2011 年 3 月、対象の 5 村落の住民が、プロジェクトの支援を受けつつ、それぞれの村落の規則を策定し、郡の人民委員会に提出した。

郡の人民委員会は、貧困層が現金を得る窮余の策として頼る可能性がある土地取引を規制することについて、村落規則で規制することは適切でないとし、再考するようコメントし、差し戻した。規則は修正され、2011 年 10 月、承認機関であるコミューンの人民委員会に提出され、2011 年 11 月に承認されるに至った。

村落規則は、総論、住民の権利、住民の義務、村落規則管理チーム、実施組織の 5 つの章から成る。

アウトプット3: A trial run of community-based ecotourism（CBET）is carried out at the selected sites.（和訳）選択したサイトでCBETが試行される。

指標: 3-1） CBETの選択地での実施計画がプロジェクト開始後16カ月以内に策定される。

CBET の実施計画は、プロジェクトのコンサルタントによって 2011 年 5 月に策定され（プロジェクト開始後 17 カ月）、6 月に報告書としてとりまとめられた。また、インフラストラクチャー整備計画についても、同年 6 月に策定された。CBET の実施計画の説明会が、コミュニティの代表者を招いて、2011 年 7 月に実施された。

CBET 実施計画は、予定より若干遅れたが、その理由としては、ベトナムにおいては、住民主導のエコツーリズムがいまだ揺籃期にあり、明確なコンセプトの共有が難しかったこと、また、適切なローカルコンサルタントの人材が確保できなかったことである。代替案として、2010 年 9 月、プロジェクトは国際コンサルタントを雇用し、実施計画の策定業務を進め、同時にローカルコンサルタントも雇用して、業務の進捗を図ったが、遅れを挽回するまでには至らなかった。

CBET の実施計画には、今の段階では、マーケティング戦略や、モニタリングシステムの考察などは含まれていない。しかし、日本人専門家によれば、これらの要素は、CBET の試験的実施が開始される頃には計画に組み込まれる予定である。

また、2011 年 6 月に環境影響評価（Environmental Impact Assessment：EIA）報告書がとりまとめられ、天然資源環境省に提出されており、承認を待っている。

指標: 3-2） BNBNPMB と森林保護の契約を結んでいる世帯の10 %以上がCBETに参加する。

プロジェクトは、活動が開始されてから 2 年弱である。 また、参加型で活動を行っていることもあり、限られた人数の村人に対して活動を行っているのが現状である。一方、森林保護活動は、対象村落の半数近くの世帯が BNBNMPBM と契約を結んでいるため、現状では、CBET の活動に正式に参加している世帯は 4%（266 世帯中 10 世帯）程度である。10 世帯の活動内容はツアーガイドである。その他、これまでに、5 村落の全 680 世帯のうち、35 世帯が、見学旅行、ツアーガイド研修、トレイル改修工事などに携わっている。

指標: 3-3） CBETモデルの試験的実施のための組織とインフラストラクチャーの整備が、プロジェクト開始後、それぞれ18カ月以内、28カ月以内になされる。

インフラストラクチャー面での整備は、ビジターセンターの建物、トレイル等の工事が進められており、一部は完了している。

組織面での整備は、2011 年 4 月に BNBNPMB 内に CEEE が設立され、CBET コンポーネント実施の中核として機能することが期待されている。

また、CBET 活動に参加する予定の住民に対する研修が進められてきている。

また、ダラット市内に拠点を置く、旅行業者との交渉が開始されており、中間レビューの時点で、11 者との業務協定が結ばれている。

ビジターセンターとエコツーリズムの実施と管理に関するマニュアル（入園料金など諸規則を含む）が準備されており、2011 年 12 月中旬には完成される予定である。

アウトプット 4: 対象住民グループに受け入れられるEFLOが開発され、村落内で普及される準備が整う。

指標: 4-1） 住民グループの70 %以上のメンバーがEFLOを受け入れる見込みが立つ。

EFLO コンポーネントでは、農産物の生産を向上する技術研修の他に、環境保全型の栽培方法、例えば、有機肥料の生産方法、毒性の低い殺虫剤の導入、残留農薬の削減等に力を入れている。また、篤農家だけでなく、平均、あるいは貧困総の農家も参加している。

現在の所、コミュニティメンバーの 128 名が、さまざまな活動に参加している。活動は、指導者研修（Training of Trainers：TOT）（指導者要請）、FFS、農民から農民への普及（Farmer to Farmer Extension：FF）、実践重視の普及（Practice Based Extension：PBE）などである。

表１０　FLO 活動への参加（2011 年 11 月）

TOT	FFS	FF	PBE	安全な野菜栽培	合計
19	27	57	20	5	128

中間レビュー時に、プロジェクトが行った 98 名を対象とした調査では、およそ 60%のコミュニティメンバーが、EFLO の活動で学んだ栽培技術を自分たちの農地で実践しているという結果であった。

合同レビューチームとしては、これらの結果から、EFLO活動に参加しているコミュニティの住民は、活動の内容に満足し、受け入れているものと考える。

指標: 4-2）　試験的実施の評価から教訓と提言が導かれ、関係者に共有される。

試験的実施の評価は、プロジェクト期間の後半で行われる予定である。

指標: 4-3）　生計手段を村落内とほかの村落に普及・促進する計画が策定される。

普及・促進計画は、プロジェクトの後半で策定される予定である。

アウトプット5: 住民グループがプロジェクトで導入したCBETとEFLOを継続するために対応すべき課題と必要な活動が明らかとなる。アウトプット5の達成状況は、プロジェクト期間の後半で行われる予定である。

３－４　プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標: BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。

指標：1）対象住民グループと BNBNPMB の間で協働の合意がなされ、国立公園内の一部における自然資源管理の協定の草案がプロジェクト終了までに作成される。

対象住民グループと BNBNPMB 間の、国立公園内の一部における自然資源管理の協定の草案は、2011 年 11 月現在、まだ策定されていない。

しかし、村落規則の作成や、CBET、EFLO コンポーネントでの活動を通じて、BNBNPMB と対象村落の住民との間に、信頼関係が構築されつつある。したがって、中間レビューの時点では、協定草案の策定の基礎が築かれつつある段階であると考える。

指標：2）プロジェクト終了までに、対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の草案が作成される。

対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の草案は、現時点では策定されていない。

指標：3）プロジェクト活動に携わる BNBNP スタッフの 70%以上が自然資源の協働管理モデルの実施方法を理解している。

プロジェクト活動は、開始されてから、まだ、2 年弱である。EFLO コンポーネントの活動が開始されてからは、1 年未満、CBET の試行実施は、今年度末から開始される予定であり、村落規則の執行についても、今後開始される状況である。したがって、BNBNPMB スタッフは、協働管理モデルの実施経験を欠いており、日本人専門家の観察を基に作成した表１１に示すとおり、BNBNPMB スタッフの協働管理モデルの実施方法の理解度は低い。

表１１　協働管理モデルの理解

2010 年 5 月の理解度の平均値（*）	2011 年 11 月の理解度の平均値
1.9	2.5

（*）評価基準は以下のとおり
① コンセプトの理解、実践経験とも限られている。
② コンセプトの理解はあるが、実践経験が不足している。
③ 関連の活動が支援を受けて実施できる。
④ 関連の活動が支援を受けずに行える。
⑤ 関連の活動が自信をもって、また、自分のスタイルで実施できる。

しかし、BNBNPMB スタッフと WG メンバーは、プロジェクト開始時期に比べて、協働管理モデルの理解度を向上させており、プロジェクトの後半では、実戦経験を通じて、理解度を高めていくことが期待できる。

第４章　レビュー結果

合同中間レビューチームは、評価 5 項目、すなわち、**妥当性**、**有効性**、**効率性**、**インパクト**、**自立発展性**の視点から、レビューの結果をとりまとめた。これらの項目の評価を、高い、中程度、低い、の 3 段階で行った結果を以下に示す。

４－１ 妥当性

プロジェクトの妥当性は、以下の理由により高いと判断する。

４－１－１　地域住民のニーズとの整合性

ベトナムでは、1989 年頃よりドイモイ[3]の成果が上がり始め、1995 年から 1996 年には 9%台の高い経済成長を続けた。1997 年からは、アジア経済危機の影響を受け、成長率が低下したものの、2000 年代に入り、海外直接投資も順調に増加し、2000 年から 2010 年の平均経済成長率は 7.26%と高成長を達成している。

一方、ベトナムでは、人口の 3 分の 1 にあたる 2,500 万人が、山岳地域や農村に暮らしているが、その多くは、経済発展に取り残され、自給自足的な農業と森林資源の利用で糊口をしのいでいる。

山岳地域の多くの世帯では、森林への依存度が高く、森林からの収穫、消費、非木材林産物（Non-Timber Forest Products：NTFP）の販売は、生計のセーフティネットと位置づけられる。人口密度の少ない地域ではあるものの、山岳地域という地形的特性及び増大する人口から、一世帯辺りの耕地面積は減少傾向にあることからも、今後の持続的な地域振興のためには、より効率的で付加価値のある農地と森林資源の活用が求められている。

このような状況のなか、BNBNPMB を含めたベトナムの国立公園は、商業、あるいはインフラストラクチャー整備のための開発圧力に加え、住民が貧困を原因として引き起こす、耕作地の拡大、樹木の伐採、動植物の狩猟と採集などによる公園周辺の森林地域への侵入という問題に直面している。また、BNBNP の周辺と内部では、農薬の使用と、生活排水のために、水系の汚染が進んでいるが、その原因の 1 つとして、地域住民の環境に対する意識の低さが挙げられる。

プロジェクトは、コミュニティの生計向上を、環境に配慮した手段を用いて達成することで、公園の自然資源を保全し、コミュニティ住民と協働して自然資源を管理するメカニズムを作りあげることを目指すものであることから、BNBNP と地域住民、双方のニーズに合致している。

４－１－２　ベトナム国政府の政策との整合性

ベトナム政府は、生物多様性保全のための政策を進めてきており、2004 年の森林保護・開発法、2005 年の環境保護法、2009 年の生物多様性保全法などが制定・施行されている。

森林保護・開発法では、村落レベルの地域コミュニティが森林の保全に果たす役割が強調されている。2010 年に定められた特別利用林組織と管理に関する法令（Decision 117）の条項 34 では、特別利用林の管理事務所がバッファーゾーンの住民を組織し、森林保護、保全、森林と

[3] 1986 年の第 6 回党大会にて採択され市場経済システムの導入と対外開放化を柱とした刷新路線

自然資源の合理的な利用等の諸活動に加えて、エコツーリズム活動にも参加するように導くことと記述されている。

上に述べた条項に加え、ベトナムにおける保護地域の管理戦略（2010 年）では、保護地域の管理者の能力強化と、コミュニティの参加の促進が、緊急の優先事項として位置づけられている。さらに、現在作成中の 2020 年までの保護地域に関する後継戦略も、方向性を 1 つにするものである。

これらの法律、規定などを踏まえ、プロジェクトの目標、上位目標はベトナム国の政策と高い整合性を持っていると判断する。

４－１－３　日本政府の政策との整合性

2009 年 7 月に改訂された「対ベトナム国別援助計画」で、わが国政府は、8,000 万人の人口を有し、経済発展の潜在的可能性が高い同国のメコン地域発展の牽引役としての重要性に言及し、援助の 4 つの柱として、経済成長促進・国際競争力の強化、社会･生活面の向上と格差是正、環境保全、ガバナンスの強化を謳っており、援助の 4 つの柱として、以下を挙げている。

① 経済成長促進･国際競争力の強化
② 社会･生活面の向上と格差是正
③ 環境保全
④ ガバナンスの強化

これらの柱の中で、③の環境保全では、具体的な重点分野として、環境保全のために、森林地域における住民の生活向上、森林保全･違法伐採対策を含む持続可能な森林経営への支援、また、森林面積（量）と質（炭素蓄積･生物多様性）の向上への支援を表明している。

ベトナム政府の体制（地方分権化の進展）や森林地の利用を取り巻く課題を踏まえて中央政府から住民に至るまでを支援対象とし、住民参加、生物多様性に基づく、持続的に利用可能で包括的な自然資源管理を行うとしている。

４－１－４　JICA の戦略との整合性

JICA は、2010 年 3 月、ベトナムに対する協力の戦略として「森林と自然保護に関する協力プログラム」を策定し、同プログラムの 5 つの柱として以下を挙げている。

① 政策支援
② 持続的森林管理
③ 森林管理と生計向上の両立の実現
④ 生物多様性保全
⑤ 気候変動

４－２　有効性 （プロジェクト目標達成度の見込み）

有効性 （プロジェクト目標達成度の見込み）は、アウトプットの達成状況（３－３）とプロジェクト目標の達成状況（３－４）から、高い～中程度と判断する。

３－３で述べたように、プロジェクトの研修に常時参加していた WG メンバーは、着実に能力を向上させつつある。これらのメンバーの日常の仕事への取り組みの姿勢から、プロジェクトの後半においても更なる能力の向上が期待できる。

また、３－４で述べたように、協働管理モデルの実施能力については、プロジェクト活動に参加している BNBNPMB スタッフは、現段階では、協働管理モデルを住民と共に実施するだけの能力は備えていないと判断される。しかし、これは、主に経験の不足からくるものであり、プロジェクト後半に、CBET の試験的実施や、村落規則の執行が開始され、経験を積むとともに能力が向上していくと考えられる。

指標 1 における、対象住民グループと BNBNPMB 間の、国立公園内の一部における自然資源管理の協定の草案は、2011 年 11 月現在、まだ策定されていない。また、指標 2 で求められる州政府の公式文書の草案の作成については、草案で扱う中身と手続きに要する時間などのファクターが不明確であるため判断が難しい。

プロジェクトの進捗は、村落規則の作成や、CBET、EFLO コンポーネントでの活動を通じて、BNBNPMB と対象村落の住民との間に、信頼関係が構築されつつあり、協定や、州レベルの公式文書草案作成のための基礎が築かれつつある段階にあると考える。

また、協働管理モデルのツールである CBET と EFLO の形がある程度できあがり、住民達の注目度が高まっている。

これらのことから、プロジェクト目標：「BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。」は、プロジェクト期間の終了時までには、満足できる水準で達成されるものと判断する。

４－３　効率性

中間レビュー時点でのプロジェクトの効率性は、投入の達成状況（３－１）とアウトプットの達成状況（３－３）との比較から、**高い～中程度**と判断する。

４－３－１ 投入実績の要約

全体として、日本側もベトナム側も、妥当な投入を行ってきた。

日本側については、投入の組み合わせ、すなわち、専門家による技術移転、本邦研修や見学旅行などの研修活動、供与資機材、ローカルコスト負担が、ベトナム側プロジェクト関係者の能力の向上に寄与した。しかし、CBET について、そのコンセプトの明確化の難しさとともに、当該分野のコンサルタントの調達が困難であったことから、結果として CBET 関連活動進捗の遅れを招いた。

ベトナム側は、19 名のスタッフを配置し（C/P と WG メンバー）、C/P ファンドの確保、プロジェクト活動に必用な執務室などを提供しており、投入は妥当なものであった。

４－３－２　アウトプットの達成状況の要約

アウトプット 1 は計画通り達成された。CBET と EFLO の 2 つのコンポーネントの実施体制が、2010 年 4 月の C/P スタッフ、WG メンバーの配置によって構築された。WG メンバーの人数は、初期の 8 名から、現状 13 名と増加した。

アウトプット 2 も、同様に、ほぼ計画通り達成された。公園内における自然資源の管理に関する基本的なルールが、5 つの対象村落の住民によって 2011 年 3 月に策定され、同年 11 月にコミューンの人民委員会に承認された。プロジェクトはこの活動を一貫して支援した。

アウトプット 3 は、対照的に、PO から若干の遅れがあった。遅れは、CBET のコンセプトの明確化が難しく共有に時間がかかったこと、また、CBET の揺籃期にあるベトナムにおいては、国内で専門的な経験を有するコンサルタントの人材が不足しており、雇用がかなわなかったことなどの理由から生じた。

アウトプット 4 については、BLS と PRA 調査、住民との対話によって、環境保全型の生計向上手段が絞り込まれ、選択され、住民を対象とする環境保全型の生計向上手段に関する研修が行われてきた。

聞き取り調査の数自体は、必ずしも十分ではないが、EFLO 研修の参加者は、研修の内容に概ね満足していると考えられる。また、来年からは、畜産などの新しい活動も組み込まれる予定である。したがって、住民が受け入れる環境保全型の生計向上手段が開発され、プロジェクトの後半における、他コミュニティへの普及の準備が基本的に整ったと判断する。

アウトプット 5 については、中間レビューの時点では関連する活動が開始されていないため、達成状況の確認は行っていない。

４－４ インパクト（見込み）

中間レビューの時点では、通常、インパクトの判断には時期尚早であるが、以下に、想定されるインパクトの概要を述べる。上位目標の達成見込みは、想定されるインパクトの 1 つとして扱う。

４－４－１ 上位目標の達成状況（見込み）

上位目標：BNBNPMB が、対象村落の住民と協働して、国立公園の一部の自然資源管理を行う能力を身につけている。

指標 1）：プロジェクト終了後 3 年以内に、対象住民ｸﾞﾙｰﾌﾟと BNBNPMB の間で、国立公園内の一部における自然資源管理の協定が結ばれる。

これまでにも述べたように、村落規則の作成や、CBET、EFLO コンポーネントでの活動を通じて、BNBNPMB と対象村落の住民との間に、信頼関係が構築されつつあり、中間レビューの時点では、協定草案の策定の基礎が築かれつつある段階であると考える。したがって、今後、対象住民グループと BNBNPMB の間で、国立公園内の一部における自然資源管理の協定が結ばれる可能性は十分にあると思われるが、事務手続きに要する時間が懸念されるため、プロジェク終了後 3 年以内に協定が結ばれるかどうかは判断が難しい。

指標 2）：プロジェクト終了後 3 年以内に、対象住民ｸﾞﾙｰﾌﾟと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）が州人民委員会で承認される。

国立公園の自然資源を緩衝地域（バッファーゾーン）の住民と協働で管理することは、ベトナムの国立公園管理政策の重要事項として位置づけられている。したがって、プロジェクトが協働管理モデルの有効性を示すことが出来れば、自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）が州人民委員会で承認される可能性は十分にあると見込まれる。しかし、前述したように、事務手続き等の時間的ファクターは不明であり、プロジェクト終了後 3 年に以内に人民委員会の承認を得られるかどうかについては判断が難しい。

指標 3）：対象村落がプロジェクトによって導入された活動を継続している。

対象村落の住民は、プロジェクトで導入した諸活動が、自分たちの利益につながることを認識すれば、それを継続していくと考えられる。CBETについていえば、住民に試験的実施を通じて成功事例を見せ、より多くの住民の関心を集めることが必要となる。 現在、CBET活動への参加の契約が、旅行業者11社となされていることは、CBETの商業的な成功の条件として、望ましい方向に向かいつつあると判断できる。さらに、CBETによって得られる見込みの利益配分の仕組みづくりが、活動の継続には必要である。

EFLOに関しては、現在までに5カ村、合計128名の住民が、TOT、FFS、FF、PBEや安全な野菜作りなどの活動に参加している。 参加者の60%が、活動で学んだ栽培技術を自分の圃場で実践している。今後の推移を見守る必用があるものの、現時点では、定着の度合いは妥当な水準であり、村の住民はEFLO活動の有効性を認識していると思われる。

しかし、同コンポーネントについては、プロジェクト活動終了後の活動の継続のための予算措置と人的リソースの確保に懸念が残る。農業生産の向上による生計の向上は、本来BNBNPMBの活動ではないため、州、あるいは郡のPAECとの連携の強化がプロジェクト活動の継続に重要な意味を持つこととなる。

４－４－２ 地域住民へのインパクト

生態系サービスへの支払い（Payment for Ecosystem Services : PES）、森林生態系サービスに対する支払い（Payment for Forest Environment Services : PFES）、500 万 ha 国家造林計画（661 プログラム）[4]などとの相乗効果で、プロジェクトは住民の生計向上に寄与することが考えられる。その結果、公園周辺の住民の森林資源への依存の度合いが減少し、開発圧力の低下、森林資源の乱用の抑止につながることが期待される。

４－４－３ 公園管理政策へのインパクト

CBETコンポーネントについては、今後の試行的実施を経て、モデル化がなされるため、実施の体制整備と、コミュニティ住民の参加促進のために、まだ当面はプロジェクトの支援が必要である。しかし、CBET自然資源の適切な利用と周辺住民の生計向上を同時に実現する手段であり、プロジェクトの結果が良好であれば、住民主体のエコツーリズムのベトナムにおける標準モデルとして、生物多様性の保護、森林資源の保全にのみ重点を置いてきたベトナムの公園管理政策にインパクトを与えることが期待される。

[4] Five-Million Hectare Reforestation Programme（the "661 Programme"）：5MHRP

４－４－４　組織面のインパクト

CEEEが2011年4月に設立され、BNBNPMB内でエコツーリズムと環境教育を実施する中核の組織として機能することが期待されている。プロジェクトダイレクターによれば、同センターの設立は、プロジェクト開始前には計画されておらず、BNBNPMBがプロジェクト活動（CBET）に参加するなかで、着想され、設立に至った経緯がある。これは、プロジェクト活動がBNBNPMBの組織に及ぼしたインパクトとして高く評価できる。

EFLO活動においては、従来、座学を中心にして普及活動を行っていた州のPAECと郡の農業センターが、プロジェクトと連携してFFS、FF、PBE等さまざまな研修活動を行う過程で、農民との対話を重視し、実践を重んじた普及スタイルに変わっていくことが期待される。

４－５ 自立発展性

４－５－１ 組織面

エコツーリズム実施の中核として機能することが期待される CEEE の設置は、組織面でのプロジェクトの自立発展性を高めた要素の１つであるが、BNBNPMB がエコツーリズムのマスタープランを策定することで、CBET の継続性はより高まる。

EFLO については、DARD と流域管理事務所との一層の連携と調整が必要である。

４－５－２　財政面

ベトナムの財政は緊縮の傾向にあるが、プロジェクトの活動内容が、森林政策と高い整合性を持っていることから、予算措置については比較的有利な環境にあると思われる。

CBET コンポーネントについては、民間セクター（旅行業者）との連携を通じて、活動の財政的な基盤が安定し、自立発展性が保たれるであろう。

一方、EFLO コンポーネントについては、今後の活動の財政的な裏付けが確保できるかどうかの懸念が残る。この意味で、DARD 下の州 PAEC、郡 PAEC との連携と調整が必須である。

４－５－３　技術面

WG のメンバーは、プロジェクト活動への参加（計画策定と実施、さまざまな研修）を通じて日本人専門家を中心としたプロジェクトスタッフに技術移転を受け、着実に能力を強化しつつある。

現状では、経験不足から CBET と EFLO 活動を独力で実施できるメンバーは、まだほとんど居ないが、勤務態度は総じて勤勉であり、意欲も高いことから、今後の更なる能力向上が期待できる。

その結果、今後は WG メンバー同士での、あるいは BNBNPMB スタッフや関連組織への技術移転が行われ、お互いの能力が高まっていくことが期待される。

以上のレビュー結果を、表１２にとりまとめた。

表１２　評価５項目によるレビュー結果

項目	レビュー結果	主な理由
妥当性	**高い**	(+)　ベトナム、日本国両政府の政策との整合性 (+)　地域住民のニーズとの整合性
有効性	**高い～中程度**	(+) WG メンバーと BNBNPMB スタッフの能力の向上 (–)　CBET コンポーネントの遅れ
効率性	**高い～中程度**	(+)　投入実績の適切さ (–)　CBET コンサルタントの雇用の遅れ
インパクト（Prospect）	**正のインパクトが期待される。**	- 正のインパクトの発現見込み - 負のインパクトは今の所想定されない
自立発展性（Prospect）	**中程度**	(+) ベトナム政府の政策との高い整合性 (+) WG メンバーと BNBNPMB スタッフの能力の向上 (–) 組織間連携、土地・農業政策との調整

第５章　結論

プロジェクトが開始された 2010 年 1 月から、現在まで 1 年 10 カ月の間、ベトナム、日本双方のプロジェクト関係者は、BNBNP における自然資源を、対象 5 カ村の住民と協働で管理するモデルを構築するという目標に向かって努力を重ねてきた。

BNBNPMB を初めとし、ラムドン省政府関連機関のスタッフは、さまざまな研修、計画策定と実施への参画を通じて、日本人専門家からの指導を受け、BNBNP の自然資源管理の協働管理に必要な知識とスキルを身につけつつある。しかし、独力で協働管理を行うまでの水準には至っておらず、これからの更なる能力の強化が必要であり、プロジェクト期間の後半における、より主体的なプロジェクト活動への参加が重要である。

中間レビューの時点では、自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の作成はまだ着手されていないが、村落規則の作成や、CBET、EFLO コンポーネントでの活動を通じて、BNBNPMB と対象村落の住民との間に、信頼関係が構築されつつあり、協定草案準備の基礎が築かれている段階であると考える。

CBET 関連の活動では、インフラストラクチャー面での整備は、ビジターセンターの建物、トレイル等、工事が進められており、一部は完了している。組織面では、2011 年 4 月に BNBNPMB 内に CEEE が設立され、CBET コンポーネント実施の中核として機能することが期待されている。また、CBET 活動に参加する予定の住民に対する研修が進められてきている。

さらに、ダラット市内に拠点を置く、旅行業者との交渉が開始されており、中間レビューの時点で、11 社との業務協定が結ばれているほか、ビジターセンターとエコツーリズムの実施と管理に関するマニュアル（入園料金など諸規則を含む）が準備されており、2011 年 12 月中旬には完成される予定である。

EFLO コンポーネントでは、農産物の生産を向上する技術研修の他に、環境保全型の栽培方法、例えば、有機肥料の生産方法、毒性の低い殺虫剤の導入、残留農薬の削減等に力を入れている。また、篤農家だけでなく、平均､あるいは貧困層の農家も参加している。

現在のところ､コミュニティメンバーの 128 名が､さまざまな活動に参加している｡活動は､TOT（指導者要請）、FFS、FF、PBE などである。

中間レビュー時に、プロジェクトが行った 98 名を対象とした調査では、およそ 60％のコミュニティメンバーが、EFLO の活動で学んだ栽培技術を自分たちの農地で実践しているという結果であり、活動が着実に住民に浸透していることが確認出来た。

これらのことから、プロジェクト前半の達成状況は全体として満足できるものであり、プロジェクト目標「BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。」は、プロジェクト期間の終了時までには、おおむね達成されるものと判断する。

しかし、EFLO 活動の継続性などに関する懸念や、関連機関の連携強化など、プロジェクトの今後の円滑な実施とプロジェクト期間終了後の自立発展性を確実なものとするために、今後、取り組むべき課題も見いだされた。これらの課題について、合同レビューチームから、関係機関への提言を、第 6 章にとりまとめた。

第６章　提言

６－１　JCC と省運営委員会（PSC）に対する提言

６－１－１　PDM の変更

現行の PDM version 2.0（2011 年 3 月 18 日作成）の修正を次回の JCC において行うことにつき、PSC の理解を求める。合同レビューチームは、レビュー結果に基づきプロジェクトに対して、PDM の変更を提言し、PDM 改定案（添付資料 6）は、プロジェクトの、より効果的な実施と目的の達成に寄与すると判断するものである。主な変更点は以下のとおりである。

(1) プロジェクト目標の指標 2 :「プロジェクト終了までに、対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）の草案が作成される。」は、「村落規則、CBET、EFLO を含む協働管理活動の継続的な実施のための政策的提言が州政府に対してなされる。」と変更する。これに伴い、PDM の活動 5-3 も変更を行う。

(2) 上位目標の指標 2 :「プロジェクト終了後 3 年以内に、対象住民グループと BNBNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働で行うために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）が州人民委員会で承認される。」 を「対象住民グループと BNBNPMB が国立公園の自然資源を協働管理するために必要な州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）に、プロジェクトの政策提言が反映されている。」に変更し、上に述べたプロジェクト目標の指標と整合性を取る。

(3) アウトプット 2 の指標 :「2-2 公園内における自然資源利用の原則と規則がプロジェクト開始後 15 カ月以内に、参加型で定められる。」を、村落規則の執行を確実にするために、「2-2 公園内における自然資源利用の原則と規則がプロジェクト開始後 15 カ月以内に、参加型で定められ、村落規則管理チームが規則の施行に関連する何らかの活動を行っている。」と変更する。

(4) アウトプット3の指標 :「3-2 BNBNPMBと森林保護の契約を結んでいる世帯の10 %以上がCBETに参加する。」を「3-2 対象村落の世帯の 5% 以上がCBETコンポーネントに参加し、何らかの収入を得ている。」と変更し、更に「3-3 15以上の旅行業者がBNBNPMBとの間で、CBET活動に参加するための協定書に調印している。」を追加する。これは、森林保護活動参加者のみがCBETの試行的実施のターゲットグループではないこと、また、試行的実施にとって旅行業者が重要な位置を占めているからである。

(5) アウトプット 4 の指標 :「4-1 住民グループの 70 % 以上のメンバーが EFLO を受け入れる見込みが立つ。」を「4-1 対象 5 カ村の住民グループの 70 % 以上のメンバーが、EFLO コンポーネントで導入した EFLO のうち、少なくとも 1 つを採用しており、50%以上の EFLO 活動参加者[5]が、栽培している作物の生産量の増加、あるいは単価の向上を達成する。」と変更する。これは、生計向上手段の受け入れの割合だけでは、生計の向上が判断できないからである。

(6) 新たな活動として 1-1-4、2-2-4、2-3、3-4-9、4-3a-5、4-3a-6 及び 4-3a-7 を加え、アウト

[5] “EFLO 活動参加者”とは、FFS、FF、PBE など、プロジェクトが主催する活動への参加者。

プット達成までの過程を明確にする。

(7) 協働管理を表す用語として *co-management* に代えて、*collaborative management* を用いて、住民と協働して行う国立公園における自然資源管理であることを明確に示す。

６－２－２　「国立公園」の意味について

PDM における「国立公園」は、公園内とプロジェクトで対象とする緩衝地域（バッファーゾーン）であると解釈する。2008 年 11 月から 12 月にかけて実施された詳細計画策定調査の時点で、対象村落の候補として想定していた Da Chays コミューンの村落のいくつかは、公園のコアゾーンに位置している。しかし、対象村落の絞り込みの過程で、公園内の村落は、ADB の FLITCH プロジェクトの対象地区であることが判明した。援助の重複を避けるために、これらの村落は JICA プロジェクトの対象地域から除外した経緯がある。結果として、緩衝地域（バッファーゾーン）にある 5 村落がプロジェクトの対象村落となった。したがって、地域住民による自然資源管理とは、公園内のコアゾーンだけでなく、緩衝地域（バッファーゾーン）にも当てはまるものとする。

６－３－３　流域管理事務所の EFLO WG への参加

ダニム･コミューンの流域管理事務所を EFLO の WG に参加させること。

６－２　プロジェクトへの提言

（1）　協働管理の協定

協働管理協定合意までの過程と、協定の内容を詰めていく際に、住民の義務のみを求めるのではなく、住民の生活の現状について十分に留意して、BNBNPMB、CPC、郡人民委員会（District Peoples' Committee : DPC）の果たすべき責任についても考慮していくことが求められる。

（2）　村落規則

対象村落の住民が起案し、2011 年 11 月に対象コミューン/タウンシップ人民委員会に承認された自然資源管理に関する村落規則の普及の施行。当該の規則について、村人、レンジャー、BNBNPMB 関係者、ダニム･コミューン流域管理事務所関係者の全てが、村人の義務と利益について理解するように周知徹底すること。規則の現地語訳（コホ語）が有効と考える。村落規則管理チームの能力強化担当として、WG メンバーを任命すること。

（3）CBET

CBET の試行的実施に際し、以下の事項を留意すること。

1）ビジネスセクター、コミューン、BNBNPMB、その他の関係機関を含むプロジェクトの関係者間の円滑な連携と、効果的な役割･責任分担によって、さまざまなニーズと関心（来訪者の満足、住民の利益、ビジネスセクターのビジネスチャンス、公園の資源保護を、全て満たす win-win の関係を構築する）を的確に調整すること。

2）CEEE の能力強化を行うこと。同センターは、BNBNPMB 内の、エコツーリズムと環境教育の運営管理の中核組織である。

3）EFLO 活動と地域コミューン内のアグロツアー、土産物作りとの連携を模索すること。

（4）EFLO

1） EFLO 活動が、耕作地の拡大抑止の点で、どの程度の効果を持つのかを検証すること。EFLO 参加世帯について、デジタルマップを用いた土地利用変化と、生産量の変化を追跡調査すること。

2） BNBNPMB と州 PAEC、郡農業センターの間の連携の強化を通じて、EFLO 活動の自立発展性を確保すること。

3） クレジットへのアクセス、農産物加工、マーケティングなどの手段を通じて、EFLO の収益性を改善する方法を模索すること。参加者の異なった区分（富裕、平均、貧困層）に応じた手段を検討すること。食糧不足の影響を受ける人々には、特段の配慮が求められる。

4） 活動参加者の異なる区分（富裕層、平均、貧困層）別に、コーヒー生産の収量と価格の両者、あるいは一方についての変化をモニターすること。このデータによって、プロジェクトは EFLO のインパクトを正確に評価することが可能となり、貴重な教訓を導き出すことが期待される。

5） 栽培時期を考慮して適切な時期に研修を行い、農民が学んだ技術を時間を空けずに応用できるように配慮すること。

（5） ワークショップや現場視察を中央政府と他のドナーのために実施し、関連する政策にプロジェクトの知見が反映されるようにすること。

（6） プロジェクト終了時までに達成すべき内容の共通理解

以下の表に示すのは、プロジェクト終了時までの達成状況のイメージとして、専門家、C/P、WG のメンバーの間で共有すべき内容である。

表１３　プロジェクト終了時までの達成状況のイメージト留意点

コンポーネント	プロジェクト終了時のイメージ	留意点
CBET	BNBNPMB 下の CEEE がビジターセンターを中心にエコツーリズム活動を継続し、住民は活動に参加することで収入を得ている状態。	CBET の安定的な実施のために十分な数のビジターを呼び込む必要がある。そのため、BNBNPMB とコミュニティの能力強化が必須である。更に言えば、将来的には、コミュニティ組織が結成され、エコツアーを自分たちで行う積極的な取り組みが望ましい。
EFLO	BNBNPMB が、州 PAEC 及び郡農業センターと連携し、FFS 等の活動を通じて、継続的にバッファーゾーンの農民の能力強化と農業経営の向上支援を行っている状態。	WG メンバーが FFS を自分たちで運営できる程度に能力の向上が必要である。 FFS で学んだ農民を核として農民のグループを組織すること、そして、グループで収益性を高めていくことが、おのおのの農民の生計向上のために重要である。
Collaborative Management	村落規則管理チームが村落規則の執行を行っている状態。 BNBNPMB 以外の政府組織がプロジェクトの成果やコンポーネントをバッファーゾーンにおける協働管理の有効な手法だと認識している状態（以下に具体的に示す）。 （i）　村落規則: コミューン人民意委員会、郡人民意委員会、ラクドン郡流域管理事務所 （ii）　CBET : コミューン人民意委員会、郡人民意委員会、省文化･スポーツ･観光局 （iii）　EFLO : コミューン人民意委員会、郡人民意委員会、省 PAEC、とラクドン郡流域管理事務所	プロジェクトで導入されたアプローチが、バッファーゾーンにおける森林保全強化とコミュニティの生計向上の手段として政策の策定に活用されていくことが期待される。

６－３　ラムドン省政府と BNBNPMB に対する提言

（1）　バッファーゾーンの管理の役割分担（BNBNPMB と DARD）

公園のよりよい管理のためにバッファーゾーンの境界を明確にすべきである。

（2）　予算の確保（PPC）

プロジェクト終了後の CBET と EFLO に対する予算措置に最善を尽くすこと。BNBNPMB の能力に見合った活動内容を注意深く検討し、計画を策定すること。

（3）　政策策定への情報提供　（BNBNPMB）

FLITCH プロジェクトと積極的に意見を交換し、JICA プロジェクトで取ってきたアプローチが、現在 DARD 下の森林管理事務所によって策定中の「国立公園エコツーリズム開発マスタープラン（National Park Ecotourism Development Master Plan）」の中に組み込まれるようにすること。

(4)　CBET の制度設計と実施（BNBNPMB）

CBET の構想と実施の時点で、エコツーリズムで見込む収入や、その他の利益を、地域コミュニティに対して適切に分配することを検討する。特に少数民族コミュニティなど、低所得者層への配慮が必要である。CEEE の得る利益の一部を、国立公園の自然資源保全や地域の生計向上のために活用する努力が求められる。

(5)　地域コミュニティの土地利用について（DARD）

EFLO の活動は、限られた世帯のみが農地の公式の所有権（Red Book/赤色証書）を認められている中で行われているのが現状である。EFLO 活動の有効性と継続性を確保するために、地域の人々の土地利用権の確保を検討するべきである。

(6)　森林保護（PPC）

州の関係者に対して、森林管理と保護の手段を強化し、プロジェクト対象地域の景観を保全･回復し、エコツーリズムの価値と魅力を高めるべきである。

(7)　栽培技術（DARD）

地域の人々の生計向上とエコツーリズム付加価値を両立させる農業技術研究を進めること。

(8)　ドナー協調　（BNBNPMB）

ドナー間の更なる調整を目指すこと。JICA、ADB、世界自然保護基金（World Wide Fund for Nature : WWF）については、現在 BNBNPMB を支援中、あるいは支援する計画を有しているので、援助の重複を避け、効率化と効果の最大限の発揮を目指すべきである。

(9)　新村落開発プログラムを BNBNPMB の活動へ組み込み

ベトナム側レビューチームメンバーは、新村落開発プログラム（New Rural Area Program）を BNBNPMB の活動への組み込むべきであるとの提言を行った。

６－４　ベトナム中央政府（MARD）に対する提言

プロジェクトで得た協働管理に関する知見と、用いられたアプローチについて、「保護地域の管理戦略 2010」の後継戦略（現在策定中）も含め、関連する政策に反映すること。

６－５　JICA に対する提言

(1)　専門家の追加派遣

エコツーリズム、マーケティング等の分野の短期専門家を、必要に応じて、プロジェクトの後半に投入し、プロジェクト目標の達成を図ること。

(2)　海外青年協力隊との連携（JOCV）

プロジェクトと、BNBNPMB に派遣予定の JOCV 隊員（環境教育隊員と村落開発隊員）間の連携によって相乗効果をもたらし、関係者の全てが利益を得るように図ること。

(3)　研修機会

地域の人材を対象として、他のアジア諸国における CBET の経験とスキルを学ぶ機会を、これまで以上に与えるよう検討すること。

(4)　永久調査区の設置支援

公園内のコアゾーンにおける生物多様性のモニターのために、永久調査区設置計画支援を

検討すること。

(5)　協働管理活動に対する一層の支援

ベトナムトにおける国立公園管理のモデルを形成すべく、CBET を含むプロジェクトの協働管理活動に更なる支援を検討すること。

付　属　資　料

合同中間レビュー報告書（M/M)

ANNEX

1. プロジェクト・デザイン・マトリックス (Version 2.0) …… 71
2. 活動計画書 (PO) (version 2.0) …… 77
3. 日本人専門家の派遣状況 …… 79
4. ベトナム側カウンターパートと WG メンバーの配置 …… 80
5. 主要活動の達成状況 …… 81
6. プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)改訂案 …… 84
7. プロジェクトによる作成報告書等一覧 …… 90

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND AUTHORITIES CONNERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIET NAM
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT FOR STRENGTHENING COMMUNITY-BASED MANAGEMENT CAPACITY OF BIDOUP-NUI BA NATIONAL PARK IN SOCIALIST REPUBLIC OF VIET NAM

The Japanese mid-term review team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Ms. Emiko Mutsuyoshi, visited the Socialist Republic of Viet Nam from 16th November to 3rd December 2011 for the purpose of conducting a mid-term review of the technical cooperation project "The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park" (hereinafter referred to as "the Project") in the Socialist Republic of Viet Nam.

This review was conducted by the Joint Mid-term Review Team, which consists of the Vietnamese review team and Japanese review team. As a series of discussions and surveys, both sides agreed on the contents of the joint mid-term review report attached hereto.

Dalat, 1st December 2011

睦好 絵美子	
Ms. Emiko Mutsuyoshi Leader, Japanese Mid-term Review Team, Director, Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environment Department, Japan International Cooperation Agency, Japan	Mr. Bùi Văn Hùng Leader, Vietnamese Mid-term Review Team, Deputy Director, Department of Agriculture and Rural Development, Lam Dong Provincial Government, Socialist Republic of Viet Nam

JOINT MID-TERM REVIEW REPORT
ON
THE PROJECT
FOR
STRENGTHENING COMMUNITY-BASED MANAGEMENT CAPACITY
OF
BIDOUP-NUI BA NATIONAL PARK
IN
SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM

Dalat, December 1st, 2011

MID-TERM REVIEW TEAM

TABLE OF CONTENTS

CHAPTER 1. OUTLINE OF THE PROJECT 1

1.1. Background of the Project 1
1.2. Summary of the Project 2

CHAPTER 2. REVIEW OF THE PROJECT 4

2.1. Objectives 4
2.2. Methods 4
2.2.1. Review Method 4
2.2.2. Member of the Review Team 4
2.2.3. Five Evaluation Criteria 5
2.3. Schedule of the Review 5

CHAPTER 3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT 7

3.1. Achievement of Inputs 7
3.1.1. The Japanese side 7
3.1.2. The Vietnamese side 9
3.2. Achievement of Main Activities 9
3.3. Achievement of Outputs 10
3.4. Achievement of the Project Purpose 14

CHAPTER 4. RESULTS OF THE REVIEW 15

4.1. Relevance 15
4.1.1. Relevance with the Local Needs 15
4.1.2. Relevance with the Vietnamese Governmental Policy 16
4.1.3. Relevance with the Japanese Governmental Policy 16
4.1.4. Relevance with JICA's Strategy 17
4.2. Effectiveness 17
4.3. Efficiency 18
4.3.1. Summary of the Inputs Achievements 18
4.3.2. Summary of the Outputs Achievements 18
4.4. Impact 19
4.4.1. Achievements of Overall Goal 19
4.4.2. Impact to Local Residents 20
4.4.3. Impact to Park Management Policy 20
4.4.4. Impact to Institutions 20
4.5. Sustainability 21
4.5.1. Institutional Aspect 21
4.5.2. Financial Aspect 21
4.5.3. Technical Aspect 21

CHAPTER 5. CONCLUSIONS 22

CHAPTER 6. RECOMMENDATIONS 23

6.1. Recommendation to the Joint Coordinating Committee (JCC) and the Provincial Steering Committee 23
6.2. Recommendation to the Project 25
6.3. Recommendation to Lam Dong Provincial Government and BNBNPMB 27
6.4. Recommendation to Vietnamese Central Government 28
6.5. Recommendation to JICA 28

ANNEXES

1. PDM (Version 2.0)

2. Plan of Operation (PO) (version 2.0)

3. Assignment of the Japanese Experts

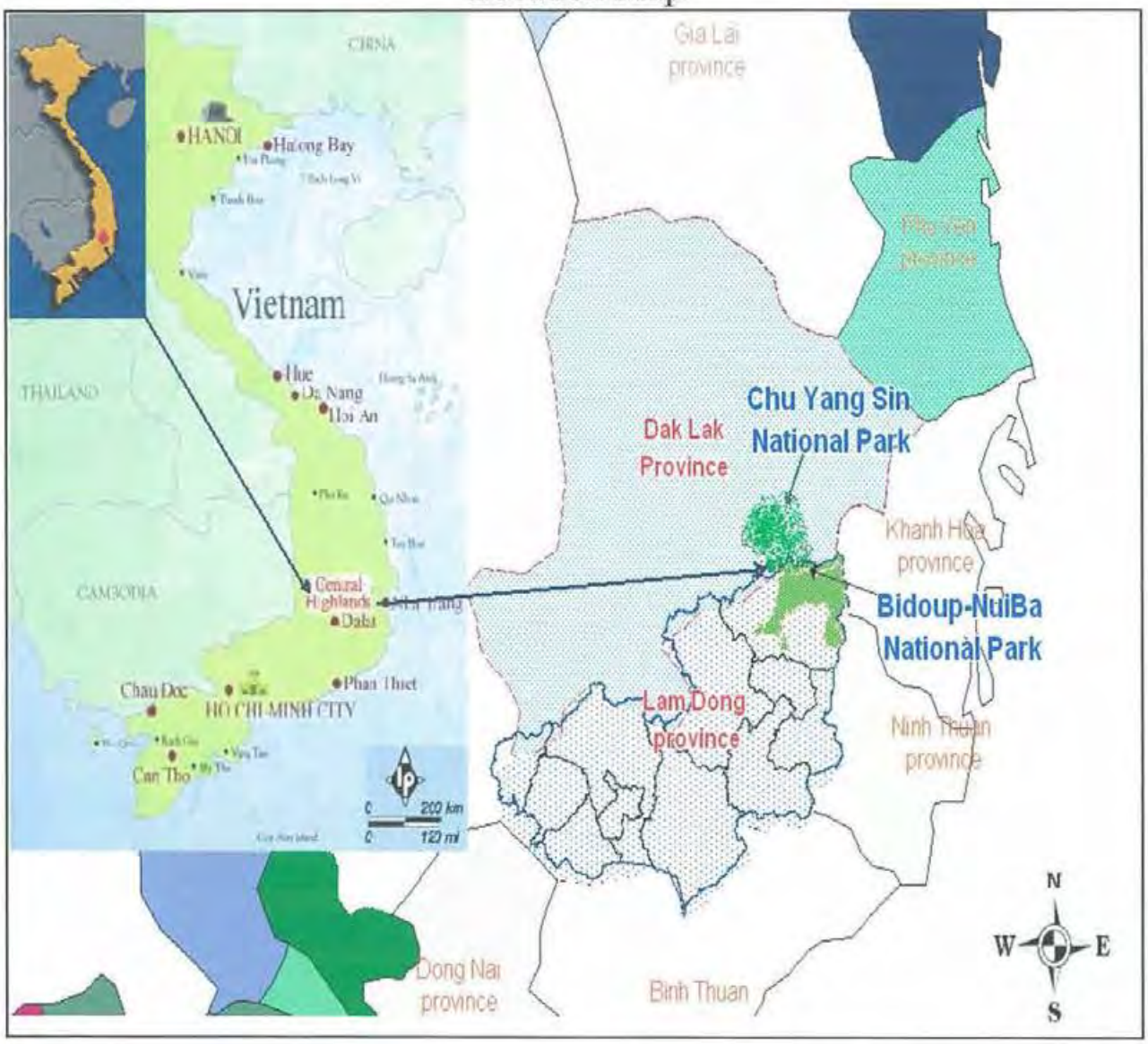
4. List of Vietnamese Counterpart and Working Group Members

5. Achievement of Main Activities

6. Draft PDM (Version 3.0)

7. List of Reports and Documents prepared by the Project

Location Map



Source: Bidoup-Nui Ba National Park Management Board

LIST OF ABBREVIATIONS

5MHRP	Five-Million Hectare Reforestation Programme (the "661Programme")
ADB	Asian Development Bank
BSM	Benefit Sharing Mechanism
BLS	Base Line Survey
BNBNP	Bidoup-Nui Ba National Park
BNBNPMB	Bidoup-Nui Ba National Park Management Board
CBET	Community Based Eco-Tourism
CEEE	Center for Ecotourism and Environmental Education
CFM	Community Forest Management
CPC	Commune Peoples' Committee
DARD	Department of Agriculture and Rural Development
DOCST	Department of Culture, Sports and Tourism
DONRE	Department of Natural Resource and Environment
DPC	District Peoples' Committee
EFLO	Ecologically Friendly Livelihood Options
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations
FCPF	Forest Carbon Partnership Facility
FPDP	Forest Protection and Development Plan
FF	Farmer to Farmer Extension
FFS	Farmer Field School
FLITCH	Forest for Livelihood Improvement in the Central Highlands (ADB)
IUCN	International Union of Conservation of Nature
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
M&E	Monitoring and Evaluation
MARD	Ministry of Agriculture and Rural Development
MONRE	Ministry of Natural Resources and Environment
NTFP	Non-timber Forest Product
ODA	Official Development Assistance
PBE	Practice Based Extension
PDM	Project Design Matrix
PES	Payment for Environmental Service
PFES	Payment for Forest Environment Services
PO	Plan of Operation
PPC	Provincial Peoples' Committee
R/D	Record of Discussions
REDD	Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries
REDD+	Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation; and the role of Conservation, Sustainable Management of Forests and Enhancement of Forest Carbon Stocks in Developing Countries
SFM	Sustainable Forest Management
VNFOREST	Viet Nam Administration of Forestry
WG	Working Group

1. OUTLINE OF THE PROJECT

1.1. Background of the Project

Bidoup-Nui Ba National Park (BNBNP) is located in northeastern part of Lam Dong Province, occupying 70, 038ha, one of the largest national parks in Viet Nam. Established as a nature reserve in 1986, it was promoted as a national park in 2004. Geologically located in the center of three important Protected Areas- namely Chu Yang Sin National Park in the north, Phuoc Binh National Park in the east, and Lam Biang Landscape Reserve in the south- the BNBNP contributes to the conservation of biodiversity of the area by playing a role of a corridor among the Protected Areas.

The Park is endowed with the forest ecosystem typical to sub-tropical high mountain climate that is composed of such wide variety of biodiversity as mountain evergreen tropical rain forest, coniferous & broadleaved mixed forest, high mountain dwarf forest, low mountain subtropical coniferous sparse forest, mossy forest and bamboo-broadleaved mixed forest. Having such wide variety of biodiversity, the Park has rich fauna and flora including 1,923 species of plants (including 96 endemic species) and 422 species of animals (32 of them are in IUCN red book) found in the Park through the survey in 2009.

In Viet Nam, as one of the world's richest countries in terms of biodiversity, the capacity building of the staff involved in the appropriate national park management is one of the most urgent and indispensable issues in the conservation of the precious biodiversity. Despite the fact that the Government has taken concrete measures for the conservation of biodiversity with the emphasis on national park such as the establishment of "Management Strategy for a Protected Area System in Viet Nam to 2010" in 2003 and the designation of 18 new national parks since 2000, these efforts have not always led to the realization of the appropriate management of national parks mainly due to the shortage of technical support for the management of national park and the insufficient financial support. Among the causes threatening the biodiversities of national parks, the human activities for making living within and around national parks by the local people is one of the crucial threats.

Adjacent to the Bidoup-Nui Ba National Park there live 5,067 households (26,028 persons), mostly ethnic minority people, who make their living by traditional agriculture. Since forests account for most parts in around the national park, arable lands are limited in the area, making lives of the local households very difficult to rely totally on the agriculture. It is considered that the poverty rate of the people living in the area exceeds 29% due to low agricultural productivity in addition to the above-mentioned limited availability of arable land per household. Under these circumstances, people living around the national park are compelled to encroach the forestland, to expand coffee plantation beyond the national park boundary, to hunt wild animals, to engage in illegal logging and to collect fuel woods. Thus, the biodiversity of the national park is under threat by the human activities.

In response to the above-mentioned issues, the Government of Viet Nam formulated a plan composed of implementation of community-based ecotourism, improvement of people's livelihood and the enhancement of management capacity of the national park management office through environmental education. In 2007 the Government sent a request for the technical cooperation on the implementation of the above plan to the Government of Japan, which officially decided to

implement a new JICA technical cooperation project based on the request. In December 2008, a survey was conducted by JICA to formulate a detailed plan for the project, the content of which was basically agreed upon by the organizations concerned such as People's Committee of Lam Dong Province and Bidoup-Nui Ba National Park Management Board (BNBNPMB), and based on the result of the survey, the Record of Discussions (R/D) was signed and exchanged by both sides on 24th September 2009 in Hanoi.

In November 2011, after one year and 10 months after the commencement of the Project, the Japanese Mid-term Review Team, headed by Ms. Emiko Mutsuyoshi, has been dispatched to conduct the mid-term review study together with the Vietnamese Review Team to ascertain the outcomes of the Project in terms of five evaluation criteria and provide recommendations on the future course of the Project.

1.2. Summary of the Project

The narrative summary of the Project is given in PDM Version 2.0 (**ANNEX 1**) approved in the JCC (Joint Coordinating Committee) in March 2011. Its summary is as follows:

Project Name: The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park

Cooperation Period: 2010.1 — 2013.12 (4 years)

Target Area: Five villages (B'No B, Bon Dung I, Da Tro, Da Ra Hoa, and Da Blah) adjacent to the boundaries of Bidoup-Nui Ba National Park

Target Group: Bidoup-Nui Ba National Park Management Board (BNBNPMB), Department of Agriculture and Rural Development (DARD), and Five Target Villages

Overall Goal: BNBNPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community groups in a collaborative manner.

Project Purpose: The capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a co-management model at the target villages.

Outputs

1. Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established.

2. Basic principles/rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community groups and BNBNPMB.

3. A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites.

4. The ecologically-friendly livelihood options that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities.

5. Issues to be addressed and actions to be taken are made clear so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the ecologically-friendly livelihood options introduced by the Project.

Main Activities

1-1 Organize working groups (WGs) for implementation of CBET and extension of ecologically-friendly livelihood development options in the target villages.

1-2 Provide training to the WGs to enhance their capacity to implement the Project.

2-1 Develop, together with local communities of the target villages, rules and principles on use of natural resources in the target villages.

2-2 Assess, together with local communities of the target villages, the current situation of the target villages in a participatory manner.

3-1 Select a local partner or contractor that can implement the CBET component on the ground.

3-2 Develop an implementation plan for a trial run of CBET at the target villages.

3-3 Assess the potential environmental impacts and incorporate countermeasures into the implementation plan stated in activity.

3-4 Establish an institutional set-up for implementation of the CBET component and enhance the capacity of the organized community group to participate in the CBET component.

3-5 Make a trial run of CBET.

3-6 Evaluate the component implemented.

4-1 Identify ecologically-friendly livelihood options to be introduced in the target villages.

4-2 Develop a work plan to introduce ecologically-friendly livelihood options in the target villages.

4-3a Organize hands-on training (Farmer Field schools: FFSs) in the plots of the core members (If the proposed livelihood option is the improvement of agricultural production such as coffee).

4-3c (*) Organize hands-on training on livelihood options (If the proposed livelihood option is the production of cottage industry, such as handicraft).

4-4 Evaluate the component implemented.

4-5 Develop an/a extension plan/promotion plan to disseminate the same options to other villagers as well as other villages.

5-1 Base d on the results of the evaluation in [3-6] and [4-4], identify necessary supports for the target villages to continue the CBET and ecologically-friendly livelihood options components after termination of the Project.

5-2 Draft an agreement between BNBNPMB and the target community groups on co-management of natural resources in the national park.

5-3 Draft a provincial government document(s) to support continuous implementation of co-management.

(*)Activity 4-3b was deleted in the 2nd JCC in March 2011.

2. REVIEW OF THE PROJECT

2.1. Objectives

The objectives of the Mid-term Review are as follows:

(1) To confirm the progress of the Project activities based on PO (Plan of Operation; **ANNEX 2**).
(2) To identify problems and issues on any aspects of the Project implementation.
(3) To review the Project Design Matrix (PDM Version 2.0).
(4) To evaluate the degree of achievement of the Project as per the five evaluation criteria, namely Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability.
(5) To make recommendations for the necessary actions and measures in order to attain the Project Purpose by the end of the Project Cooperation Period.

2.2. Methods

2.2.1. Review Method

The Japanese and Vietnamese Mid-term Review Teams jointly reviewed the Project using the five evaluation criteria. The activities included in the review are report analysis, field surveys, a series of discussions and interviews with relevant officials, the Project staff and the residents of the target villages.

2.2.2. Members of the Review Team

Members

The Japanese Review Team

1. Ms. Emiko MUTSUYOSHI (Team Leader), Director, Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environment Department, JICA

2. Ms. Suzuka SUGAWARA (Poverty Alleviation/Governance), Senior Advisor, JICA

3. Mr. Yasukuni SHIBATA (Park Management), General Nature Conservation Planning Director, Naha Natural Environment Office, Kyushu Regional Environmental Office, Ministry of the Environment

4. Mr. Kotaro TANIGUCHI (Evaluation Planning), Deputy Director, Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environment Department, JICA

5. Dr. Hideaki HIGASHINO (Evaluation Analysis), Senior Consultant, RECS International Inc.

The Vietnamese Review Team

1. Mr. Bùi Văn Hùng, Deputy Director, Department of Agriculture and Rural Development

2. Dr. Vo Van Thoan, ex Head, Department of Social Forestry, Nong Lam University

3. Dr. Le Quang Thong, Faculty of Economics, Nong Lam University

2.2.3. Five Evaluation Criteria

The review was conducted based on the five criteria listed below:

1) Relevance

Relevance measures the extent to which the Project is consistent with the priorities and policies of the target group, recipients and donor.

2) Effectiveness

Effectiveness measures the extent to which the activities achieve its purpose, or whether this can be expected to happen on the basis of the outputs.

3) Efficiency

Efficiency measures the output – qualitative and quantitative – in relation to the inputs. This generally requires comparing alternative approaches to achieving the same outputs in order to see whether the most efficient process has been used.

4) Impact

Impact indicates whether the Project has had effects on its surroundings in terms of technical, economic and socio-cultural, institutional, and environmental factors.

5) Sustainability

Sustainability measures the extent to which the objectives of the Project will continue to be accomplished after the completion of the Project, in other words, the extent to which the groups affected by the Project intend to and/or are able to take charge by themselves to continue accomplishing its objectives.

2.3. Schedule of the Review

The Joint Review Team worked for 17 days from 16 November to 2 December 2011 in Da Lat and Hanoi for carrying out the following activities.

Day	Date	Activities	Accommodation
1	16 Nov (Wed)	<Dr. Higashino> 09:30 Departure from Tokyo/Narita (VN301) 13:40 Arrival at Ho Chi Minh 17:10 Departure from Ho Chi Minh (VN1386) 18:00 Arrival at Dalat	Dalat
2	17 Nov (Thu)	<Dr. Higashino> 8:00-Meeting with Japanese Expert 9:00-Interview Survey with WG members	ditto
3	18 Nov (Fri)	<Dr. Higashino> 08:00: Observation of Farmer Field School /interview to PAEC/Residents	ditto

4	19 Nov (Sat)	<Dr. Higashino> Visit to Vistor Center/Documentation	ditto
5	20 Nov (Sun)	< Ms. Sugawara > 10:00 Departure from Tokyo/Narita (VN311) 14:40 Arrival at Hanoi 16:30 Departure from Hanoi (VN1565) 18:10 Arrival at Dalat <Dr. Higashino> Documentation	ditto
6	21 Nov (Mon)	< Ms. Sugawara > RECOFTC Workshop <Dr. Higashino> Interview Survey	ditto
7	22 Nov (Tue)	<Dr. Higashino> Interview Survey	ditto
8	23 Nov (Wed)	< Ms. Sugawara > ditto <Dr. Higashino> Interview to Residents in B'No B <Mr. Shibata> 10:55 Departure from Okinawa/Naha (JL3098) 13:20 Arrival at Narita <Mr. Taniguchi, Mr. Shibata> 18:00 Departure from Tokyo/Narita (VN3311) 22:25 Arrival at Hanoi	<Ms. Sugawara & Dr. Higahino> ditto <Mr. Shibata & Mr. Taniguchi> Hanoi
9	24 Nov (Thu)	< Ms. Sugawara > ditto <Dr. Higashino> Documentation <Mr. Shibata & Mr. Taniguchi> 8:00 Courtesy Call on Ministry of Agriculture and Rural Development 9:15 Meeting with JICA Forestry Program Advisor 16:30 Departure from Hanoi (VN1565) 18:10 Arrival at Dalat	<Ms. Sugawara, Mr. Shibata, Mr. Taniguchi & Dr. Higashino> Dalat
10	25 Nov (Fri)	<Mr. Shibata, Mr. Taniguchi, Ms. Sugawara & Dr. Higashino> 8:00 Kick off Meeting 9:30 Meeting with JICA Experts (Mr. Oda & Ms. Yajima) 10:30 Meeting with Bidoup-Nui Ba National Park Management Board <Ms. Mutsuyoshi> 10:00 Departure from Tokyo/Narita (VN311) 14:40 Arrival at Hanoi 16:30 Departure from Hanoi (VN1565) 18:10 Arrival at Dalat	<All> Dalat
11	26 Nov (Sat)	<Ms. Mutsuyoshi, Mr. Shibata, Mr. Taniguchi, Ms. Sugawara & Dr. Higashino> Field Visit	ditto
12	27 Nov (Sun)	8:00- Internal Meeting /documentation	ditto
13	28 Nov (Mon)	8:00- Internal Meeting/ documentation	ditto
14	29 Nov (Tue)	8:00~12:00 Meeting with BNBNPMB and the Project Staff 14:00 Courtesy Call on PPC 15:00- Documentation	ditto
15	30 Nov (Wed)	All day: Documentation	ditto
16	1 Dec (Thu)	8:30-11:30 Provincial Steering Committee 16:50 Departure from Dalat (VN1564) 18:30 Arrival at Hanoi	Hanoi
17	2 Dec (Fri)	10:00 Debriefing to Biodiversity Conservation Agency, and Viet Nam Environmental Administration, MARD 16:00 Debriefing to JICA Viet Nam Office	N/A
18	3 Dec (Sat)	<Ms. Mutsuyoshi, Ms. Sugawara, Mr. Taniguchi & Dr. Higashino> 00:10 Departure from Hanoi (VN310) 07:00 Arrival at Tokyo/Narita <Mr. Shibata> 00:05 Departure from Hanoi (VN346) 06:30 Arrival at Nagoya 08:30 Departure from Nagoya (NH301) 11:00 Arrival at Okinawa/Naha	

3. ACHIEVEMENTS OF THE PROJECT

3.1. Achievement of Inputs

3.1.1. The Japanese Side

In line with the R/D signed on 24th September 2009 in Hanoi, two long-term experts were dispatched as described in the table below. In addition, one short-term expert on eco-tourism was dispatched in October 2011 for approximately one month.

1) Assignment of the Japanese Experts (ANNEX 3)

Assignment of the Japanese Experts

Category	Expertise	Assignment Period
Long-term expert	Chief technical advisor/Collaborative Management	17.9 M/M
Long-term expert	Coordinator/Community Development	19.1 M/M
Short-term expert	Eco-tourism	0.9 M/M (Sept 15-Oct.13, 2011)

2) Training in Japan

Up to date, seven Vietnamese staff members were sent to Japan for training.

Training in Japan

Name	Period	Field and the Agency of Training
Mr. Ton That Minh (Project Manager till Aug, 2011)	14/11/2010-04/12/2010 (3 weeks)	Promotion of SATOYAMA Initiative: Biodiversity conservation and rural development through the sustainable management of natural resources/Japan Wildlife Research Center
Ms. Vu Hanh Dung (EFLO WG)	28/11/2010-20/12/2010 (3 weeks)	Enhancement of Community Capacity and Rural Development Function for Vietnamese Road-side station (Michinoeki) /Nagoya University
Mr. Ton Thien An (EFLO WG Leader)	09/08/2011-23/09/2011 (1.5 months)	Integrated Agriculture and Rural Development through the participation of local farmers (A)/ Tsukuba International Center
Mr. Le Van Huong (Project Director)	20/10/2011-4/11/2011 (2 weeks)	Eco Tourism/Japan Ecotourism Society
Mr. Nguyen Luong Minh (Project Secretary/ Director, CEEE)	20/10/2011-12/11/2011 (0.8 month)	Eco Tourism/Japan Ecotourism Society
Mr. Tran Nhat Tien (CBET WG Leader)	20/10/2011-12/11/2011 (0.8 month)	Eco Tourism/Japan Ecotourism Society
Mr. K' Vang (CBET WG)	20/10/2011-12/11/2011 (0.8 month)	Eco Tourism/Japan Ecotourism Society

3) Provision of Machinery and Equipment

The equipment to the value of USD 153,424 was handed over to the Vietnamese side until up to date. Main items are as shown in the table below.

Provision of Machinery and Equipment (*)

	Item	Nos.	JFY2009 (2010.1-2010.3)	JFY2010 (2010.4-2011.3)	Total
1	Vehicle	2		$88,980.0	$88,980
2	Motorbike	4		$3,778.0	$3,778
3	Laptop computers	17	$6,545.9	$5,538.0	$12,084
4	Desktop computers	5	$591.7	$2,322.2	$2,914
5	Digital camera	15	$1,724.0	$2,924.7	$4,649
6	Digital video camera	2	$1,824.7	$0.0	$1,825
7	Data projector	2		$2,878.2	$2,878
8	GPS	16	$1,780.3	$5,383.2	$7,163
9	Photocopier	3	$5,476.9	$265.9	$5,743
10	Flatscreen TV	1		$1,320.0	$1,320
11	Binocular	2		$1,826.3	$1,826
12	Safe	1	$282.0	$0.0	$282
13	Weeder	40		$10,286.0	$10,286
14	Sprayer	32		$9696.0	$9696
	Total	----------	$18,225.5	$135,198.5	$153,424

<* Only main items

4) Local Expenditure

As of November 2011, local cost born by the Japanese side amounted to USD 407,890 as shown in the table below;

Local Expenditure

	Item	JFY2009 <*1 (2010.1 3)	JFY2010 (2010.4 2011.3)	JFY2011 (2011.4 2011.11)	Total
1	General	$21,422.26	$111,830.77	$17,922.8	$151,175.8
2	Travel	$363.02	$27,176.14	$4,310.5	$31,849.7
3	Personnel	$4,093.52	$40,085.83	$41,919.3	$86,098.6
4	Conference	$1,419.22	$1,077.08	$0.00	$2,496.3
5	Local consultants <*2	$0.00	$104,614.28	$26,568.6	$131,182.9
6	Construction	$0.00	$3,464.05	$1,621.4	$5,085.5
	Total	$27,298.02	$288,248.15	$92,342.6	$407,888.7

<*1: Japanese Fiscal Year
<*2 : One international consultant for CBET is included.

3.1.2. The Vietnamese Side

1) Allocation of Counterpart Personnel and WG Members (ANNEX 4)

In April 2010, 12 Vietnamese staff members were assigned to the Project; four to CBET WG and four to EFLO WG besides the four counterpart members. At the time of the Mid-term Review (November 2011), the number increased to19 consisting of six counterpart staff, six CBET WG members and seven EFLO WG members.

Counterpart Personnel and WG members

Time Period	April 2010	November 2011
Counterpart Staff	4	6
WG (CBET)	4	6
WG (EFLO)	4	7
Total	12	19

2) Provision of Land, Building and Facilities

Office Spaces, Buildings and Facilities

Two offices (15 m^2 and 13m^2, respectively) are available for the Japanese Experts and the Project staff members in the 2nd floor of the BNBNPMB office in Dalat, Lam Dong Province. The BNBNPMB office is scheduled to move to a new building in Da Nhim Commune in April 2012 and it is expected that there will be more spacious rooms available at the current location in Dalat.

In addition, the Vietnamese side arranged office appliances (desks, chairs, bookshelves, etc) by the Vietnamese side.

3) Allocation of Local Cost (Counterpart Fund)

The Vietnamese side allocated counterpart fund as shown below:

Counterpart Fund Allocation

Fiscal Year	Amount (VND)
2010 (2010.1-12)	695,122,000
2011 (2011.1-12)	1,799,751,910
Total	2,494,873,910

The total 2.4 billion VND is approximately 120,000 USD (USD1.0 = VND 21,000 as of November 2011).

According to the Project Director, counterpart fund for the Project (Total amount: 3 billion 927 million VND; approximately equal to USD187,000) was secured in September 2011, for 4 years until the end of the Project cooperation period. In addition, the construction cost for the access road to the visitor center, approximately USD 1.0 million, was allocated for Vietnamese fiscal year 2012.

3.2. Achievement of Main Activities

The achievement of the Main Activities is as summarized in **ANNEX 5**.

3.3. Achievement of Outputs

The achievement of expected Outputs, over the former half of the Project period, is summarized as follows;

Output 1: Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established.

Indicator: 1-1) Working groups are formulated within 3 months after the commencement of the Project.

The WGs for CBET and EFLO were organized in March 2010, which is within 3 months after the commencement of the Project. The initial eight members of the WGs were allocated from BNBNP (4), Department of Culture, Sports and Tourism (2), and District Agriculture Extension Center (1), Forestry Division (1), DARD, respectively.

Indicator: 1-2) The capacities of working groups members are enhanced through a series of training courses organized by the project as compared with those before the project

Capacity of WG members has been gradually and steadily enhanced through various training and participation in formulation and implementation of operation plans.

The following assessment was conducted by the Japanese Experts on the required skills of CBET and EFLO WG members who were regularly involved in the activities.

Capacity of CBET Working Group

Grade / Required Skills	Avg. Grade <* as of May, 2010	Avg. Grade as of November, 2011
1. Communication Skill	**2.3**	**3.3**
2. Eco-tour Guide Skill	**2.2**	**3.0**
3. Environmental Interpretation Skill	**2.3**	**3.3**
4. First Aid Skill	**2.0**	**3.0**
5. Map and GPS Skill	**3.5**	**3.8**
6. English	**2.3**	**4.3**

Capacity of EFLO Working Group

Required Skills \ Grade	Avg. Grade as of May, 2010	Avg. Grade as of November, 2011
1. Information Gathering Methods, Analysis and Assessment	**2.8**	**3.9**
2. Farming System Practices (cultivation and animal husbandry)	**3.0**	**3.9**
3. Understanding and Assessment Skills of EFLO, Field Observation, Indigenous Knowledge	**3.0**	**3.9**
4. Communication Skills, and Group Discussion Facilitation	**2.8**	**3.6**
5. Operational Planning and Management (planning training lessons)	**2.9**	**3.6**
6. Teamwork and Conflict Management Skills	**2.9**	**4.0**
7. Motivation, and Respect to Local Community	**3.0**	**3.8**

<*: The qualitative evaluation criteria for grading are as follows:

1. Limited understanding of the concepts and practices
2. Understanding the concept without sufficient practice
3. Able to conduct the activity with some assistance (or can recognize local needs and respect local culture)
4. Able to conduct the activity independently (or can build good rapport with community).
5. Confident in delivering the work with creativity (or have good motivation and attitude to work with local community in a participatory way)

According to the interview survey, some WG members from organizations other than BNBNPMB had difficulty in striking balance between the duties in the Project and their organizations and had fewer opportunities to participate in the Project activities.

In addition to the trainings, study tours to six national parks, one in Indonesia and five in Viet Nam, were conducted and contributed to broaden the views of the members in terms of eco-tourism development.

Study Tour

Destination	Time Period
CAT TIEN National Park, DONG NAI Province	May 10 - May 11, 2010
GUNUNG HALIMUN SALAK National Park, West Java Province, Indonesia Gunung Gede Pangrango National Park, West Java Province, Indonesia CFET (Centre for Forestry Education and Training)	July 18 - July 26, 2010
YOK DON National Park, DAK LAK Province	October 25 - October 27, 2010
BACH MA National Park, THUA THIEN-HUE Province	January 4 - January 5, 2011
PHONG NHA-KE BANG National Park, QUANG BINH Province	January 6 - January 8, 2011
SAPA and HOANG LIEN National Park, LAO CAI Province MAI CHAU, HOA BINH Province	February 12 - February 17, 2011

Output 2: Basic principles/rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community groups and BNBNPMB.

Indicator: 2-1) Basic information of the target villages, including present resource map of the village, is gathered and prepared in a participatory manner within 9 months after the commencement of the Project.

Basic information on the target villages (socio economic status of each household) was gathered from April to September 2010 through base line survey (BLS) and the results were compiled as a report in July 2010, six months after the commencement of the Project.

In addition, PRA survey by Nong Lam University started in August 2010 to secure understanding of such issues as agriculture-based and non-agriculture livelihoods, forest resource management, and land use inside the National Park. The summary of the results regarding Da Nhim Commune was submitted to the Project in November, which is 10 months after the commencement of the Project. The final PRA report on the five villages as well as control villages was prepared in February 2011.

Indicator: 2-2) Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the Project.

Five village regulations on the management of natural resources were drafted in March 2011 (14 months from the commencement of the Project) by villagers with support of a Project consultant and submitted to Lac Duong Peoples' Committee (PC) for endorsement.

The District People's Committee judged that the first drafts proposing a measure to restrain the sale of agriculture land use rights could bring further burden to poor farmers. Consequently, the Committee suggested that the regulations would be revised. In response to the suggestion, the regulation was revised, submitted to the Commune People's Committee in October 2011 and approved in November 2011.

The village regulations are composed of five sections; General Provision, Interests of the villagers, Responsibilities of villagers, VRMT (Village Regulation Management Team), and Organization for Implementation.

Output 3: A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites.

Indicator: 3-1) Implementation plans of CBET at the selected sites are prepared within 16 months after the commencement of the Project.

The CBET implementation plans were formulated in May 2011 by a Project consultant and compiled as a report in June 2011. A presentation on CBET work plans was conducted to the community representative in July 2011. In addition, infrastructure plan was prepared in June 2011.

The delay of preparation of CBET Plan was caused by difficulty associated with making consensus on the concept of CBET and recruiting local partners, as ecotourism is still in early stage of development in Viet Nam. Alternatively the Project recruited an international consultant as a

short-term expert on CBET plan formulation and a local consultant as a CBET program officer (implementer of the plan) in September 2010.

EIA report was prepared and submitted to MONRE for approval. It is in the process of approval as of November 2011.

A marketing strategy and a monitoring system of CBET were not sufficiently developed at the time of the Mid-term Review. They are scheduled to be fully developed shortly after the time the CBET trial begins.

Indicator: 3-2) More than 10 % of the households who have engaged in the forest protection contract with BNBNPMB take part in the CBET component.

Most of households in the five target villages are participating in forest protection programs. Meanwhile the Project has been working with relatively limited number of the households. Consequently, approximately 4% of households (10 out of 266 households) engaging in forest protection programs are participating in CBET activities as of November 2011. However, up to date, 35 out of the total 680 households in the five villages have benefited from CBET related activities including study tour, tour guide training, labor wage from trail improvement.

***Indicator: 3-3)* Institutional and infrastructure set-ups are developed for implementation of a trial run of CBET model within 18 months and 28 months respectively after the commencement of the Project.**

Major items of infrastructure set-up; such as a visitor center building and trek trails, have been constructed or under construction.

As regards institutional set-up, CEEE (Center for Eco-tourism and Environmental Education) was established in April 2011 as a core entity for CBET implementation and capacity development of candidate participants in CBET component has been under progress.

In addition, invitation of tour operators from Da Lat to CBET started, and as a result, 11 tour operators have signed minutes of agreement with BNBNPMB until November 2011.

The Visitor Center and Ecotourism Operation and Management Manual that specifies entrance fee, etc. is under preparation and will be completed in the middle of December 2011.

Output 4: The ecologically-friendly livelihood options that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities.

***Indicator: 4-1)* More than 70 % of the members of the community groups are likely to accept the ecologically-friendly livelihood options introduced in the component.**

In EFLO, in addition to technical trainings to increase yield, eco-friendly cultivation methods, such as organic fertilizer production, use of less toxic insecticide, reduction of residue of pesticide, etc. are emphasized, and not only better-off farmers, but also average and poor farmers participate in the activities.

So far, a total of 128 community group members have participated in various activities such as TOT (Training of Trainers), FFS (Farmer Field School), FF (Farmer to Farmer Extension), PBE (Practice Based Extension), etc. in five target villages.

Participation in EFLO Activities (as of Nov.2011)

TOT (Training of Trainers)	FFS (Farmer Field School)	FF (Farmer to Farmer Extension)	PBE (Practice Based Extension)	Safe Vegetable	Total
19	27	57	20	5	128

According to the questionnaire survey conducted to 98 group members in November 2011, approximately 60% of those who were surveyed apply the cultivation method they learned in EFLO activities.

The Joint Review Team considered that, based on the facts mentioned above, attendants to the EFLO trainings were satisfied with the contents of the trainings and are likely to accept the EFLO component.

***Indicator: 4-2)* Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.**

The trial run has not been commenced yet.

***Indicator: 4-3)* An/A extension plan and promotion plan to disseminate the same options to other villagers, as well as other villages is prepared.**

The extension and promotion plans are not prepared yet. They will be prepared based on the lessons learned and recommendations obtained through the trial run.

Output 5: Issues to be addressed and actions to be taken are clarified so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the ecologically-friendly livelihood options introduced by the Project.

The achievement of Output 5 will be confirmed in the latter half of the Project period.

3.4. Achievement of the Project Purpose

Project Purpose: The capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages.

Indicator:1) Consensus on co-management is built between the target community groups and BNBNPMB, then draft agreements on management of natural resources in part of the national park are prepared by the end of the Project.

Draft agreements on the collaborative management of natural resource between BNBNPMB and the target community groups are not yet prepared as of November 2011.

However, it is considered that rapport is being established gradually between BNBNPMB and the

target community groups from the fact that village regulations (rules and principles on natural resource use) were prepared by the community members in March 2011 with assistance of the Project and approved by Commune Peoples' Committee in November 2011.

Indicator:2) Provincial government documents, such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to co-manage natural resources in part of the national park are drafted by the end of the Project.

Provincial documents, such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to collaboratively manage natural resources in part of the national park is not prepared yet as of November 2011.

Indicator:3)More than 70% of the BNBNP staff who participate in the Project understands how to implement the model of co–management of natural resources in the national park.

BNBNPMB staff members participating in the Project activities have not obtained sufficient experiences yet in any of CBET, EFLO or enforcement of the prepared village regulations since those activities have either begun recently or are yet to start.

Understanding on Co-Management Model

Average Grade <* April 2010	Average Grade November 2011
1.9	2.5

<*: The qualitative evaluation criteria for grading are as follows:
1. Limited understanding of the concepts and practices
2. Understanding the concept without sufficient practice
3. Able to conduct the activity with some assistance (or can recognize local needs and respect local culture)
4. Able to conduct the activity independently (or can build good rapport with community).
5. Confident in delivering the work with creativity (or have good motivation and attitude to work with local community in a participatory way)

Nevertheless, as shown in the table above, counterpart staff and WG members showed improvement in understanding the collaborative management model according to the Japanese Experts, although not quite satisfactory yet.

4. RESULTS OF THE REVIEW

The Joint Mid-term Review Team conducted review of the Project with five criteria, namely, **Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact** and **Sustainability** of the Project. The grading was made basically at three levels, namely **Low, Moderate** and **High**. The details of review results are presented in the subsequent sections.

4.1. Relevance

The relevance of the Project is considered **High** based on the following reasons;

4.1.1. Relevance with the Local Needs

Viet Nam achieved remarkable economic growth in 1990s through Doi Moi reform program.

However, majority of people living in the mountainous and rural areas are left behind the economic development. Many of them make both ends meet and are known to have high levels of forest dependence, through the extraction, consumption and sale of non-timber forest products (NTFPs).

In the mountainous areas, despite of being scarcely populated, farmland of a household has a tendency to become smaller due to population growth as well as mountainous and undulating topography. Consequently, in order to achieve regional development, more efficient utilization of agricultural and forest resources is crucial.

Under the circumstances, BNBNP as well as other national parks in Viet Nam have faced with major threats due to commercial and infrastructure development, and the needs of residents such as cultivation, harvest of trees and plants, hunting of animals, and encroachment of forest areas adjacent to national parks that are mostly caused by community members because of poverty. In addition, contamination of water sources in and around BNBNP is taking place by overuse of agro-chemicals and domestic wastewater to the natural environment partly due to lack of awareness among the community members. The Project aims at conserving natural resources of the Park through improvement of livelihood of community residents and trying to establish collaboration mechanism for natural resources management with local residents. Therefore, the Project is relevant with the needs of both BNBNP and the community members.

4.1.2. Relevance with Vietnamese Governmental Policy

Vietnamese Government has been pursuing a policy of biodiversity conservation through the legislation of *Law on Forest Protection and Development in 2004*, *Law on Environment Protection in 2005 and Law on Biodiversity Conservation in 2009*.

The Law on Forest Protection and Development emphasized the role of "local communities" at the village level. Article 34 of *Decree on Special Use Forest Organization and Management in 2010* (Decision 117) stipulates that management board of Special Use Forest shall make arrangement of buffer zone residents to participate in protection, conservation and rational use of forest products and natural resources as well as ecotourism services.

In the above mentioned Article 34 of Decision 117 and "Management Strategy for a protected area system in Viet Nam to 2010" in which strengthening capacity of protected area managers and increase of community involvement are classified as immediate priority. A succeeding strategy to the Decision is under preparation, and will retain the same direction to 2020.

Considering these laws and regulations, the Overall Goal and the Purpose of the Project are judged consistent with the Vietnamese Government policy.

4.1.3. Relevance with Japanese Governmental Policy

In Country Assistance Program for Viet Nam, made to public in July 2009, Japanese Government expressed its philosophy and significance of the assistance to the country. In the report, Viet Nam's high potential for economic growth with its more than 80 million population and as well as rising

importance of the nation in promoting regional economic integration and partnership through the development of the Mekong region.

The 4 priority areas of assistance cited in the report are:

1) Promotion of Economic Growth and Strengthening of International Competitiveness
2) Improvements in Living and Social Conditions and Corrections of Disparities
3) Environmental Conservation
4) Strengthening of Governance

As regards 3) Environmental Conservation, specific measures are mentioned, such as i) sustainable forest management and natural environment conservation, ii) support to provide for improvements in forests and other natural resources in terms of "quantity" (forest area) and "quality" (carbon stocks, biodiversity) with consideration to the issues surrounding the Vietnamese government system (progress of decentralization), iii) use of forestland (lack of support for residents granted land-use rights, excessive subdivision of land accompanying such grants, a large number of impoverished people dwelling in forests or in their vicinity) and iv) other problems, covering a range of areas from central government to the residents.

4.1.4 Relevance with JICA's Strategy

JICA formulated its cooperation strategy to Viet Nam, "Cooperation Program on Forestry and Nature Conservation" in March 2010. In the Program, five pillars are set as follows:

1) Policy Support;
2) Sustainable Forest Management;
3) Livelihood Improvement of Forest Dependent Communities;
4) Biodiversity Conservation; and
5) Climate Change

4.2. Effectiveness (Prospect)

The effectiveness of the Project (prospect of the Project Purpose achievement by the end of the Project cooperation period) is considered **between High and Moderate** based on the degree of achievement of Outputs (**3.3**) and the Project Purpose (**3.4**).

As described in 3.3, WG members who attended the training activities regularly improved their capacities gradually and steadily. They will enhance the capacity continuously in the latter half of the Project period.

When it comes specifically to the capability to implement and manage the model of collaborative management, BNBNPMB staff members participating in the Project activities have not had sufficient ability yet due to limited experiences in CBET, EFLO or enforcement of village regulations since those activities have either begun recently or not yet started. However, their understanding on the collaborative management model has shown improvement as described in 3.4

and likely to improve continuously in the latter half of the Project.

At the time of the Review, official documents such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to collaboratively manage natural resource are not prepared yet. However, rapport is being built between the community members and BNBNPMB and the foundation for the next step was laid judging from the fact that village regulations (rules and principles on natural resource use) were prepared by the community members in March and approved by Commune Peoples' Committee in November 2011.

In addition, CBET, and EFLO as a tool of collaborative management of natural resources were basically developed and are drawing attention of the residents of the target villages.

Taking into consideration these facts, the Project Purpose; "the capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages." will be achieved to a reasonable, if not a maximum, extent by the end of the Project cooperation period.

4.3. Efficiency

Efficiency of the Project is considered **between High and Moderate** based on the achievements of Inputs (3.1) and Outputs (3.3) as described below:

4.3.1. Summary of the Inputs Achievement

Overall, both the Japanese and Vietnamese sides made inputs appropriately in terms of amounts.

As regards the Japanese side, combination of inputs, namely, allocation of the Experts for transfer of technology, training of counterpart staff in Japan, various training courses, study tours, provision of equipment and local cost assistance, are considered effective in the process of capacity development of Vietnamese staff members. However, difficulty associated with recruiting a local expert on CBET and development of CBET concept caused a delay of the progress of the activities related to CBET.

The Vietnamese side allocated 19 Staffs (Counterpart Personnel and WG members), counterpart fund and office space, etc. necessary for the Project activities, which are considered reasonable.

4.3.2. Summary of the Outputs Achievement (except for Output 5)

Output 1 has been achieved reasonably. Implementation structure of the two components (CBET and EFLO) was established by the allocation of Counterpart Personnel and WG members in April 2010. The WGs that were initially comprised of 8 persons increased to 13 as of November 2011.

Output 2 was also mostly achieved as expected. Basic rules in management of natural resources in the national park was prepared by the villagers with the assistance of the Project in March 2011 and approved in November 2011.

Output 3, in contrast, is behind the schedule according to the PO (Plan of Operation version 2). The delay was caused because of difficulty of recruiting a consultant on CBET, which consequently led to a series of delay, and both preparation of implementation plan and execution of trial run were delayed.

As regards Output 4, through BLS and PRA, and discussion with the villagers, EFLOs were identified and a series of trainings to villagers have been conducted.

The Joint Review Team confirmed that, to the best of limited number of interviews conducted, attendants to the EFLO trainings were satisfied with the contents of the trainings. In addition, from the next year, new options such as animal husbandry will be introduced. Hence, it can be concluded that the EFLOs accepted by the target community groups are already developed and will be ready for dissemination among the communities in the latter half of the Project period.

4.4. Impact (Prospect)

It is still premature to evaluate the Impact at the time of Mid-term Review. In the subsequent sections, therefore, expected impacts and the prospect of Overall Goal are described briefly.

4.4.1. Achievement of Overall Goal (prospect)

Overall Goal: BNBNPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community groups in a collaborative manner.

Indicator 1): Agreements between the target community group and BNBNPMB on management of natural resources in part of the national park are concluded within three years after the end of the Project.

As described in the previous chapter, BNBNPMB is building rapport with village community groups through various Project activities. Therefore, it is expected the agreements between target community groups and BNBNPMB will be concluded in the near future. However, it is still difficult to predict whether it can be concluded within three years after the end of the Project.

Indicator 2): Provincial government document (s), such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to co-manage natural resources in part of the national park are approved by PPC within three years after the end of the Project.

Collaborative management of the natural resources in the national park with buffer zone residents are viewed as one of the most crucial issues in the forest management policy in Viet Nam. Therefore, when the Project shows good results, there is a good prospect that policy recommendations are reflected in provincial government documents such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to collaboratively manage natural resources in part of the national park. However, there is concern about whether approval of those documents can be obtained within three years after the end of the Project.

Indicator 3): The target villages continue to practice the activities introduced by the Project.

The target villages are considered to continue to practice the activities introduced by the Project, once they notice and understand that it will be beneficial for them.
As regards CBET, it is necessary to show residents a successful case of trial run to draw more attention from residents thereby securing villagers to continue activities introduced by the Project. Contract (signing of minutes of agreement for eco-tour) with 11 tour operators, as of November 2011, is considered a good sign of the progress. Development of BSM and sound marketing strategies of CBET are also necessary to ensure the continuity of the activities.

In EFLO, so far, a total of 128 community group members have participated in various activities such as TOT (Training of Trainers), FFS (Farmer Field School), FF (Farmer to Farmer Extension), PBE (Practice Based Extension), etc. in five target villages under EFLO component and it was confirmed that approximately 60% of the attendants to the EFLO trainings were satisfied with the contents of the trainings and are likely to accept the EFLO component.

Therefore, the Joint Review Team judged that residents in the five target villages had recognized the usefulness of the livelihood improvement skills they learned under EFLO. However, there is a slight concern about EFLO component if there is no secured budget for implementing its activities. In the sense, collaboration with Provincial Agricultural Extension Center and District Agricultural Center will play a vital role to ensure sustainability of the Project.

4.4.2. Impact to Local Residents

The impacts of the Project, combined with other on-going governmental schemes such as PES, or 661 program, will help improve the livelihoods of the local people, who are the main source of exerting influences on natural resources in the park, and through which reduce the pressure of development and over-exploitation of the resources by local people.

4.4.3. Impact to Park Management Policy

Regarding the CBET pilot scheme, although it needs support from the project to complete the operation mechanism and to encourage as much participation of the community as possible, it will be a standard model for other national parks in Viet Nam in the community-based direction to take advantage of the natural resources (without exploitation) to improve their livelihoods and to develop the local economy at the same time. The CBET model is drawing attention from other national parks not only in Viet Nam but also in foreign countries such as Indonesia.

4.4.4 Impact to Institutions

CEEE (Center for Eco-tourism and Environmental Education) was established in April 2011. The idea of the Center establishment was inspired as BNBNPMB was involved in the Project, according to the Project Director.

In EFLO activities, the staff of Provincial Agricultural Extension Center and District Agricultural Center has been working in collaboration with the Project since the commencement of the Project.

Before the involvement, the staff conducted conventional extension method with emphasis on lecture.

Being involved in EFLO activities such as FFS, FF, PBE, etc., it is expected that they will change the style of extension activities putting more emphasis on practices in the field and communication with farmers.

4.5. Sustainability

4.5.1. Institutional Aspect

Sustainability of CBET by the Project is expected to be secured through development of a master plan by BNBNPMB.

CEEE (Center for Eco-tourism and Environmental Education) established in April 2011 is expected to function as a core entity for CBET implementation.

As regards EFLO, there is a need for further collaboration and coordination with DARD and the Watershed Management Board for ensuring its sustainability.

4.5.2. Financial Aspect

In general, the Vietnamese government has tight budget conditions. However, the Project is highly relevant with the forest management policy of the country and is likely to have favorable conditions in terms of budget allocation.

As regards CBET component, by collaborating with business sector (tour operators), financial condition of the component will be stable and its sustainability will be secured.

Meanwhile, there is a slight concern about EFLO component if there is no secured budget for implementing its activities. In the sense, collaboration with Provincial Agricultural Extension Center and District Agricultural Center will play a vital role to ensure sustainability of the Project.

4.5.3. Technical Aspect

The WG members have improved their technical knowledge and skills through participating in various training programs in and outside the country as well as taking guidance from the Japanese Experts.

At present, few WG members, both in CBET and EFLO, are considered capable to conduct their assignment independently because of lack of experiences. However, they are hardworking and eager to learn from the Japanese Experts and other Project consultants.

Thus, their capacity will improve continuously from now on and technology transfer from WG members to other BNBNPMB staff and other relevant institutions is envisaged continuously after the Project cooperation time is terminated.

The summary of the review based on the five evaluation criteria is shown in the table below:

Summary of Evaluation based on Five Evaluation Criteria

Criteria	Evaluation	Reasons
Relevance	**High**	(+) Relevance with the policies of Viet Nam and Japan (+) Relevance with the needs of local residents
Effectiveness	**High-Moderate**	(+) Steady improvement of capacity of WGs and other officers (–) Delay of CBET component
Efficiency	**High-Moderate**	(+) Inputs were executed properly in general. (–) Recruit of a CBET consultant delayed.
Impact (Prospect)	**Positive Impacts Expected**	- Positive Impacts are expected. - No negative Impacts observed so far.
Sustainability (Prospect)	**Moderate**	(+) High relevance with the Vietnamese policy (+) Improvement of capacity of WGs (–) Ambiguous institutional and policy set-ups

5. CONCLUSIONS

Since the commencement of the Project in January 2010 up until date, both the Vietnamese and Japanese sides have been working together to establish a collaborative management model of natural resources in the Bidoup-Nui Ba National Park together with residents in the five target villages.

The officers of the BNBNPMB and other related agencies, the target group, have strengthened their capacity necessary to collaboratively manage the Bidoup-Nui Ba National Park through various trainings conducted and participating in planning and implementation of the operation plan. However, in order for the Vietnamese stakeholders to obtain necessary capacity to conduct the collaborative management model independently, further enhancement of their capacity is necessary, and the outcome will depend on their active participation in the Project activities in the latter half of the cooperation period until December 2013.

At the time of the Review, official documents such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB, to collaboratively manage natural resource are not prepared yet. However, rapport is being built between the community members and BNBNPMB and the foundation for the next step was laid judging from the fact that village regulations (rules and principles on natural resource use) were prepared by the community members in March 2011 and approved by Commune Peoples' Committee in November 2011.

Although there was delay in CBET work plan development, for both CBET and EFLO components, work plans were prepared and they have been implemented on trial basis at the time of Mid-term Review.

For CBET component, infrastructure and institutional set-ups are in progress, namely; establishment of CEEE (Center for Eco-tourism and Environmental Education) in April 2011 as a core entity for CBET implementation, capacity development of candidate participants in CBET component, and

invitation of tour operators from Da Lat to CBET started, and as a result, 11 tour operators signed minutes of agreement with BNBNPMB as of November 2011.

The Visitor Center and Ecotourism Operation and Management Manual that specifies entrance fee, etc. is under preparation and will be completed in the middle of December 2011.

As regards EFLO, a total of 128 community group members have participated in TOT (Training of Trainers), FFS (Farmer Field School), FF (Farmer to Farmer Extension), PBE (Practice Based Extension), etc. in five target villages and it was considered that attendants to the EFLO trainings were satisfied with the contents of the trainings and are likely to accept the EFLO component.

In addition to technical trainings to increase yield, ecologically friendly cultivation method, such as organic fertilizer production, use of less toxic insecticide, reduction of residue of pesticide, etc. are emphasized, and not only better-off farmers, but also average and poor farmers participate in the activities under EFLO.

Based on the progress mentioned above, it is expected that the Project Purpose "the capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages." will be achieved to a reasonable extent by the end of the cooperation period.

In the subsequent chapter, recommendations for better management and progress of the Project are summarized based on the findings of the Joint Review Team.

6. RECOMMENDATIONS

6.1. Recommendations to the Joint Coordinating Committee (JCC) and the Provincial Steering Committee (PSC)

(1) Endorsement of revision of the Project Design Matrix (PDM)

Endorse the revision of the current PDM ver. 2 (18th March 2011) by the JCC with the consent of the PSC. The joint mid-term review team has made a proposal to the Project to change it based on the results of the review. The proposed new PDM (see Annex 6) will lead to more effective implementation of the Project to achieve its objectives. The major changes are as follows:

a. Objectively Verifiable Indicator (OVI) No. 2 of Project Purpose "Provincial government documents, such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to co-manage natural resources in part of the national park are drafted by the end of the Project." should be modified as "Policy recommendations to provincial government for ensuring continuous implementation of collaborative management including activities of components of village regulations, CBET and EFLO are produced." in order to make tasks and outcome more specific. In conjunction with this, Activity 5-3 should be also modified.

b. OVI No. 2 of Overall Goal "Provincial government document(s), such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to co-manage natural resources in

part of the national park are approved by PPC within three years after the end of the Project." should be modified as "Policy recommendations are reflected in provincial government documents such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB for collaborative management of natural resources in part of the national park." to be coherent with modification of OVI of Project Purpose mentioned above.

c. OVI of Output 2 "2-2. Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the project." should be modified as "2-2. Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the Project, and Village Regulations Management Teams carry out some activities related to enforcement of the regulations." in order to secure the enforcement.

d. OVI of Output 3 "3-2. More than 10 % of the households who have been engaged in the forest protection contract with BNBNPMB take part in the CBET component" should be modified as "3-2. More than 5% of the households in the target villages take part in the CBET component with some earnings from the CBET activities." Also "3-3. More than 15 tour operators which have signed Minutes of Agreement with BNBNPMB participate in the CBET activities." is added. This is because (a) the forest protection group is not the only target group for CBET trial, and (b) tour operators are important for implementing trial of ecotourism.

e. OVI of Output 4 "4-1. More than 70 % of the members of the community groups are likely to accept the ecologically-friendly livelihood options introduced in the component" should be modified as "4-1. More than 70 % of the members of the community groups of five target villages adopt at least one of the ecologically-friendly livelihood options (EFLO) introduced in the component, and more than 50 % of the participants of EFLO raise production or value of crops they are cultivating." This is because the acceptance rate of the options is not enough to prove whether or not livelihoods of the participants are improved.
Note: "Participants of EFLO" means those who participate in Farmers Field School (FFS), Farmers to Farmers, Practice-based Extension (PBE), etc. which are carried out by the Project.

f. New activities should be added as Activities 1-1-4, 2-2-4, 2-3, 3-4-9, 4-3a-5, 4-3a-6 and 4-3a-7 in order to clarify the steps to achieve outputs.

g. The term "collaborative management" should be used instead of "co-management" in the context of national park management.

(2) Interpretation of the term "national park"
Read the term "national park" in the PDM as land area composed of area within the park and that of buffer zone in the Project. At the stage of the detailed planning survey of the Project conducted in November – December 2008, some of the identified candidate villages in Da Chays Commune were in the core zone of the national park. However, in the selection stage of target villages, it was found that the candidate villages within the park were to receive assistance from the Asian Development Bank (ADB) through Forest for Livelihood Improvement in the Central Highlands (FLITCH)

project. To avoid duplication of assistance in the same area, those villages were excluded from the target villages of the Project. As a result, all five selected villages are located in the buffer zone of the national park. Therefore, from the logical point of view, natural resource management by local people should be read as that not only in the core zone but also in the buffer zone.

(3) Assignment of Watershed Management Board members into EFLO WG
Include officials from Da Nhim Watershed Management Board into EFLO WG.

6.2. Recommendations to the Project

(1) Agreement on collaborative management
In designing of process and contents of agreement on collaborative management, consider not only duties of villagers, but also responsibility of BNBNPMB, Commune People's Committee (CPC) and District People's Committee (DPC), with due attention to livelihood situation and benefits of villagers.

(2) Village regulations
Disseminate the village regulations on the management of natural resources, drafted by target village members, and approved by the Commune / Town People's Committees in November 2011. The regulations should be fully understood both on duties and interests of the villagers by all villagers, forest rangers and related staff of BNBNPMB as well as Da Nhim Watershed Management Board. Translation of the regulations into local language (K' ho) facilitates such a process.
Assign working group members to enhance capacity of Village Regulations Management Teams.

(3) Community-based ecotourism (CBET)
During implementation period of CBET trial, try to bear in mind the following:

- Smooth collaboration and effective demarcation of responsibilities among different stakeholders including business sector, communities, BNBNPMB and other relevant organizations to coordinate their different needs and interests (seeking for a win-win situation, i.e. satisfaction of visitors, benefit of villagers, opportunities for the business sector, and conservation of the park).
- Capacity development of the Center for Ecotourism and Environmental Education (CEEE), which is the responsible body for managing ecotourism and environmental education services in BNBNP.
- Possibility to link up with EFLO activities e.g. agro-tour, production of souvenir goods in local communities.

(4) Ecologically-friendly livelihood options (EFLO)
a. Make sure to monitor the mitigation effect of EFLO in cultivation land expansion through tracing land use change on digital map and change in yield of participating households.

b. Try to seek for strengthening collaboration among BNBNPMB, Provincial Agriculture Extension Center (PAEC), and District Agriculture Extension Center (DAEC) to secure sustainability and expansion of EFLO activities.

c. Try to seek ways for increasing profitability of EFLO activities through improvement in credit accessibility, processing and marketing. Attention should be paid to situations and capacities of different segments of participants (better-off, average and poor), particularly to those people prone to be in food insecurity.

d. Monitor the change in yield and/or value in coffee production for different segments of the participants (better-off, average, and poor). This enables the Project to have a sound assessment of the impact of EFLO on different segments of participants, and draw useful lessons learnt.

e. Conduct training in most appropriate timing in relation to farming activities for which new skills should be applied.

(5) Organize workshop(s) / filed visit for the central government and other donors aiming project experience to be reflected into related policies.

(6) Common understanding of status to be achieved by the end of the Project

The following are the images of status to be achieved by the end of the Project, which should be shared among all experts, counterparts and working group members.

Category	End of the Project	Remarks
CBET	CEEE of BNBNPMB conducts ecotourism activities utilizing mainly the visitor center, with participation of community members who are receiving benefit.	In order to attract enough visitors for the stable and sustainable implementation of CBET, capacity development of both BNBNPMB and communities is necessary. Moreover in the future, formulation of community organizations is desired so that they will be proactive in organizing eco-tour by themselves.
EFLO	BNBNPMB, with collaboration of Provincial Agricultural Extension Center (PAEC) and District Agricultural Center (DAC), can continuously support empowerment of, and improve farm management by farmers in the buffer zone through Farmers Field School (FFS) and so on.	It is important that capacity of members of working group is developed so that they can facilitate FFS by themselves. Organizing farmers, with a core of those who completed FFS, and activities to increase profitability of them is also important for improvement of livelihood of each farmer.
Collaborative Management	Village Regulations Management Team is functioning regarding enforcement of village regulations. Government stakeholders other than BNBNPMB (mentioned below) acknowledge the following methods as effective approaches for the collaborative management of the buffer zone. (i) village regulations: CPC, DPC and Watershed Management Board of Lac Duong DPC (ii) CBET: CPC, DPC and DOCST (iii) EFLO: CPC, DPC, PAEC of DARD and Watershed Management Board of Lac Duong DPC	It is desired that approaches developed in this Project are to be utilized in formulation of policies which enhance forest conservation and livelihood improvement of communities in the buffer zone.

6.3. Recommendations to Lam Dong Provincial Government and BNBNPMB

(1) Demarcation of buffer zone (BNBNPMB and DARD)

Clarify demarcation of the buffer zone of the park for better management.

(2) Allocation of budget (PPC)

Make the best effort of allocation of budget for CBET and EFLO after the termination of the Project. Carefully plan and develop the CBET and EFLO activities within financial capacity of BNBNPMB.

(3) Provision of policy basis (BNBNPMB)

Actively engage in dialog with FLITCH project in order for the approaches taken in the Project to be integrated into the National Park Ecotourism Development Master Plan being prepared by the Forestry Project Management Board under DARD.

(4) Designing and implementation of CBET (BNBNPMB)

In its designing and implementation, ensure fair income and other benefit share to local communities, particularly to those with lower incomes such as ethnic minority communities. Effort should be made to utilize part of earnings of CEEE from CBET for activities directly linked to conservation of national park and improvement of local livelihood situation.

(5) Land use by local communities (DARD)

Currently EFLO is implemented where a limited number of local households have red books for agricultural land. To ensure effectiveness and sustainability of EFLO, due consideration should be paid to land security of local people.

(6) Forest protection (PPC)

Order related stakeholders of province to enhance effective measures to manage and protect forest for better landscape within and surrounding the Project area in order to increase the value of ecotourism.

(7) Farming technique (DARD)

Research on farming technique which could serve both to livelihood improvement of local people and adding value for ecotourism.

(8) Donor coordination (BNBNPMB)

Seek possibility of further coordination among donors, especially JICA, ADB and WWF which are supporting / planning to support BNBNP, in order to avoid duplication and maximize efficiency and effectiveness of cooperation.

(9) Integration of New Rural Area Program into activities of BNBNP Management Board (BNBNPMG)

The Vietnamese Mid-term Review Team members recommended to integrate New Rural Area Program into activities of BNBNP Management Board.

6.4. Recommendations to Vietnamese Central Government (MARD)

Reflect the experience and approach on collaborative management into related policies and strategies including a proposed new strategy succeeding "Management Strategy for a Protected Area System in Viet Nam to 2010".

6.5. Recommendations to JICA

(1) Additional input of experts

Consider dispatch of short-term experts such as ecotourism and marketing, if necessary, in the latter half of the Project duration to achieve the Project Purpose.

(2) Collaboration with Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV)

Consider collaboration between the Project and JOCVs ((1) Environmental Education, (2) Rural Development) who are going to be attached to BNBNPMB to realize synergy and benefit all concerned parties.

(3) Training opportunity

Consider to offer more opportunity to local human resources to learn experience and skill in community-based ecotourism in other Asian countries.

(4) Planning for establishment of permanent plot(s)

Consider to assist planning activities of permanent plot(s) to monitor biodiversity in the core zone of the park.

(5) Further support to collaborative management

Consider further support to collaborative management including CBET to become a model for national park system in Viet Nam.

ANNEX 1 Project Design Matrix (PDM)
Project Title: The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park
Project Period: 2010.1- 2013.12 (4 year)
Target Area: Five villages (tentatively identified) adjacent to the boundaries of Bidoup-Nui Ba National Park
Target Group: Bidoup-Nui Ba National Park Management Board (BNBNPMB), Department of Agriculture and Rural Development (DARD), Five Target Villages Ver.2.0 (prepared in March 2011)

NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTION
Overall Goal BNBNPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community [1] groups in a collaborative manner.	1. Agreements between the target community groups and BNBNPMB on management of natural resources in part of the national park are concluded within three years after the end of the Project. 2. Provincial government document (s), such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to co-manage natural resources in part of the national park are approved by PPC within three years after the end of the Project. 3. The target villages continue to practice the activities introduced by the project.	Agreements Government documents Government documents	
Project Purpose The capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a co-management model at the target villages.	1. Consensus on co-management is built between the target community groups and BNBNPMB, then draft agreements on management of natural resources in part of the national park are prepared by the end of the Project. 2. Provincial government documents, such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB to co-manage natural resources in part of the national park are drafted by the end of the Project. 3. More than 70% of the BNBNP staff who participate in the Project understands how to implement the model of co –management of natural resources in the national park.	Project Report Project Report Interview/Questionnaire Survey in the beginning, mid-term review and terminal evaluation.	There is no significant change in natural environment of the park.
Outputs 1. Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established.	1-1. Working groups are formulated within 3 months after the commencement of the Project. 1-2. The capacities of working groups members are enhanced through a series of training courses organized by the project as compared with those before the project	Project Report/Decision Questionnaire Survey/Interview before and after the training	1. There is no significant change in upper level development plans, policies, and laws. 2. There is no major change in the organizational structure, upper level plan, policy and regulations of BNBNPMB.
2. Basic principles/rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community groups and BNBNPMB.	2-1. Basic information of the target villages, including present resource map of the village, is gathered and prepared in a participatory manner within 9 months after the commencement of the Project. 2-2. Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the Project.	Project Report / Map Project Report / Plan	

3. A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites.	3-I. Implementation plans of CBET at the selected sites are prepared within 16 months after the commencement of the Project. 3-2. More than 10 %of the households who have engaged in the forest protection contract with BNBNPMB take part in the CBET component. 3-3. Institutional and infrastructure set-ups are developed for implementation of a trial run of CBET model within 18 months and 28 months respectively after the commencement of the Project. 3-4. More than 50% of visitors / guests are satisfied with the contents of the CBET model offered by the component. 3-5. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders,	Project Report / Plan Agreement made among three parties Project Report Questionnaire Survey/ Interview Workshop Report	3. Economic situation does not deteriorate dramatically in the local context.
4. The ecologically-friendly livelihood options that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities.	4-1. More than 70 % of the members of the community groups are likely to accept the ecologically-friendly livelihood options introduced in the component. 4-2. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders. 4-3. An/A extension plan and promotion plan to disseminate the same options to other villagers, as well as other villages is prepared.	Questionnaire Survey/ Interview Workshop Report Project Report/Extension plan	
5. Issues to be addressed and actions to be taken are clarified so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the ecologically-friendly livelihood options introduced by the Project.	5-1. Issues to be addressed and necessary actions/interventions to be taken are reported by the project management in Joint Coordinating Committee (JCC) by the end of the Project. 5-2. An action plan with recommendations to the relevant organizations are approved by JCC by the end of the Project.	Project Report M/M agreed by JCC Project Report M/M agreed by JCC	

1 :"Target community groups" are the villagers' groups of community /households who are living in the same village and willing to take part in the Project.

Activities	Inputs		
	Japanese Side	**Vietnamese Side**	I. Economic situation does not worsen drastically. 2 An extensive wildfire does not occur. 3. There is no significant transfer of counterpart personnel in WG. 4 There is no plan of resettlement for the target communes.
1-1. Organize working groups (WGs) for implementation of CBET and extension of ecologically-friendly livelihood development options in the target villages. 1-1-1 Clarify and define the roles and responsibilities of the relevant divisions and sections under DARD of Lamdong Province. 1-1-2 Select staffs who can work for the Project from the relevant sections and divisions of BNBNPMB, DARD of Lamdong Province, and DAC (District Agriculture Center) 1-1-3 Organize working groups and define the roles and responsibilities of the members of the groups	**Japanese Experts (long-term)** • Co-management Advisor • Coordinator/Community Development (Other experts will be determined during the course of the Project as needed.)	**Counterpart Personnel** • Chairperson of the Provincial Steering Committee • Project Manager • Staff of BNBNPMB • Staff of DARD • Staff of District Agriculture Center	
1-2. Provide training to the WGs to enhance their capacity to implement the Project. 1-2-1 Conduct a training need assessment to identify the training needs of the members of WGs 1-2-2 Develop a training / capacity development program for the members based on the results of training needs assessment 1-2-3 Implement a training/capacity development program.	**Equipment and machinery**	**Facility and Equipment** • Project office building • Office facilities	
2-1. Assess, together with local communities of the target villages, the current situation of the target villages in a participatory manner 2-1-1 Develop the TOR for the survey and invite possible local resources to a bid. 2-1-2 Select a/ contractor/s for the work 2-1-3 Organize and hold socialization and consultation meetings at the target villages to explain the project to local communities of the villages. 2-1-4 Select community members who would take part in the implementation of the Project. 2-1-5 Conduct a household interview survey and PRA at the target villages. 2-1-6 Figure out the present natural and social conditions of the target villages, traditional knowledge and practices in natural resource use, issues in natural resources use and agricultural production, any development needs and potentials of the target villages.	**Provision of training** **Local expense**	**Administration and operational cost**	
2-2 Develop, together with local communities of the target villages, rules and principles on use of natural resources in the target villages. 2-2-1 Develop a present conceptual map on resources of the target villages through participatory method, 2-2-2 Identify the potential natural resources that can be used for CBET or ecologically-friendly livelihood support. 2-2-3 Develop rules and principles on use and management of natural resources in the national park so that local communities can gain economic benefits from the resources in a sustainable manner			
3-1 Select a local partner or contractor that can implement the CBET component on the ground			

3-2 Develop an implementation plan for a trial run of CBET at the target villages. 3-2-1 Select local communities/households who will take part in the CBET component considering the resource used for CBET and organize the selected households into group(s) 3-2-2 Identify necessary activities for implementation of the CBET component together with the organized community group. 3-2-3 Identify necessary facilities and equipment / other infrastructure set-ups for implementation of the CBET component and confirm site conditions where the listed facilities / equipment are to be installed/built. 3-2-4 Develop a work plan including a construction plan for the CBET component in a participatory manner. 3-2-5 Estimate the total budget required for implementation of the CBET component. 3-2-6 Build a consensus among all the stakeholders on sharing cost as well as responsibilities in implementation of the CBET component.			
3-3 Assess the potential environmental impacts and incorporate countermeasures into the implementation plan stated in activity [3-2] above. 3-3-1 Review the existing regulations on environmental impact assessment. 3-3-2 Identify the potential environmental impacts attributable to CBET component 3-3-3 Assess the identified impacts from legal perspectives and non-legal perspectives (community value). 3-3-4 Incorporate countermeasures as necessary.			
3-4 Establish an institutional set-up for implementation of the CBET component and enhance the capacity of the organized community group to participate in the CBET component. 3-4-1 Develop a training plan for the members of the community group so that they can take part in the CBET component. 3-4-2 Organize a variety of training courses for the members in accordance with the training plan. 3-4-3 Set up fees to be collected from a guest (e.g., payment to a guide, accommodation fee, etc.) in a participatory manner. 3-4-4 Build a consensus among the stakeholders on sharing benefits gained from implementation of the CBET component. 3-4-5 Construct/install facilities and equipment as planned in [3-2] by the Project 3-4-6 Make a rule on use of facilities and equipment provided under the CBET component and make an agreement among the community group, BNBNPMB and the Project. 3-4-7 Formulate a marketing strategy for a CBET model (e.g., preparation of simple advertising materials, namely brochure and flyer) 3-4-8 Make a contingency plan in preparation of any accidents during implementation of the CBET component.			
3-5 Make a trial run of CBET 3-5-1 Assist the target community group in the implementation of a CBET model on trial. 3-5-2 Check the satisfactory level of guests by using a simple questionnaire 3-5-3 Monitor the progress of the component periodically and provide necessary technical assistance to the community group as well as the NGO(s).			

3-6 Evaluate the component implemented. 3-6-1 Develop an evaluation plan to evaluate the CBET component together with the working group 3-6-2 Organize separate evaluation workshops with the community group and BNBNPMB, respectively. 3-6-3 Draw lessons learned and present recommendations.			
4-1 Identify ecologically-friendly livelihood options to be introduced in the target villages. 4-1-1 Assess the present constraints on agricultural production. 4-1-2 Short-list the possible livelihood options to be introduced in the target village based on the land use and resource map Assumptions prepared in [2-1]. 4-1-3 Assess the possible options easiness, applicability, economic impact, environmental impact, and demonstration effect together with local communities 4-1-4 Select the ecologically-friendly livelihood options to be introduced in the target villages.			
4-2 Develop a work plan to introduce ecologically-friendly livelihood options in the target villages. 4-2-1 Select local communities / households who participate in the program and organize them into a group at each village. 4-2-2 Select core members for demonstration purposes and define the roles and responsibilities of the members of the groups. 4-2-3 Make a work plan including a hands-on training together with the community group defining responsible persons/bodies for each activity of the work plan and make an agreement among the community group, the work group and the Project. 4-2-4 Facilitate the discussion of sharing benefits/products gained in the program among the members. 4-2-5 Estimate the total cost necessary for implementation of the component.			
4-3a Organize hands-on training (Field Farmers' schools: FFSs) in the plots of the core members (If the proposed livelihood option is the improvement of agricultural production such as coffee) 4-3a-I Organize study tours for the community group as well as core members (In the case where only the core members are taken to a study tour, a feedback meeting should be organized to share the results of the study tour with other members.) 4-3a-2 Organize a series of hands-on training courses (Field Farmers' Schools: FFSs) at the demonstration plots. 4-3a-3 Provide necessary materials so that other group members could introduce the farming techniques demonstrated in FFSs. 4-3a-4 Organize an annual monitoring workshop with each community group.			
4-3c Organize hands-on training on livelihood options (If the proposed livelihood option is the production of cottage industry, such as handicraft). 4-3c-I Organize study tours for the community group as well as core members (In the case where only the core members are taken to a study tour, a feedback meeting should be organized to share the results of the study tour with other members.) 4-3c-2 Organize a series of hands-on training courses on the proposed livelihood options 4-3c-3 Provide necessary materials so that other group members could introduce the techniques demonstrated in hands-on training. 4-3c-4 Conduct a research to market the products to be produced under the component 4-3c-5 Organize an annual monitoring work shop with each community group.			

4-4 Evaluate the component implemented 4-4-1 Develop an evaluation plan to evaluate the ecologically-friendly livelihood support component together with the working group 4-4-2 Organize separate evaluation workshops with the community group and BNBNPMB, respectively. 4-4-3 Draw lessons learned and present recommendation			
4-5 Develop an/a extension plan/promotion plan to disseminate the same options to other villagers as well as other villages. 4-5-1 Identify potential difficulties in disseminating the options /techniques to other villages. 4-5-2 Develop a manual for application of the ecologically-friendly livelihood options so that other local communities in the target villages as well as other villages around the park could introduce such options/techniques in their own farms/plots. 4-5-3 Formulate a marketing strategy to sell NTFPs/handicraft. /other products produced in the component (Simultaneously examine the possibility of the linkage with the CBET program, such as green tourism and souvenirs) 4-5-4 Draft an extension/promotion plan for promotion of the ecologically-friendly livelihood options in the buffer zone of the park.			
5-1 Base d on the results of the evaluation in [3-6] and [4-4], identify necessary supports for the target villages to continue the CBET and ecologically-friendly livelihood options components after termination of the Project. 5-1-1 Identify necessary government support (e.g., any legislative arrangement for allocation of long-term resource use rights to the communes, an investment plan to support the target community group as well as other communities to continuously apply the ecologically-friendly livelihood options, etc.) 5-1-2 Identify necessary training or capacity development activities for the target community groups to continue the components and manage natural resources in accordance with the rules/principles defined in [2.2]. 5-1-3 Explore possible funding sources for the target community groups to continue the components.			
5-2 Draft an agreement between BNBNPMB and the target community groups on co-management of natural resources in the national park. 5-2-1 Formulate a drafting team consists of stakeholders. 5-2-2 Prepare an initial draft. 5-2-3 Conduct public hearing. 5-2-4 Finalize the draft.			**PRECONDITIONS** I. Local communities who reside adjacent to the boundaries or currently use natural resources in BNBNP are willing to participate in the Project. 2. There is no plan of resettlement that makes all residents move out the park boundary.
5-3 Draft a provincial government document(s) to support continuous implementation of co-management. 5-3-1 Formulate a drafting team consists of stakeholders. 5-3-2 Prepare an initial draft(s). 5-3-3 Conduct public hearing. 5-3-4 Finalize the draft(s).			

ANNEX 2: PLAN OF OPERATION (PO)

Outputs		Activities		Timeframe																Responsible agencies / bodies
				1st year				2nd year				3rd year				4th year				
No.	Summary	No.	Summary	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
1	An implementation structure for the two components (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is developed and enhanced for implementation of the project	1-1	Organize working group (WGs) for implementation of CBET and extension of ecologically-friendly livelihood development options in the target villages																	JICA Project Team, BNBNPMB, DARD
		1-2	Provide training to the working groups (WGs) to enhance their capacity to implement the project																	JICA Project Team, DARD
2	Basic principles / rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community group and BNBNPMB	2-1	Assess, together with local communities of the target villages, the current situation of the target villages in a participatory manner																	JICA Project Team, BNBNPMB
		2-2	Develop, together with local communities of the target communes, rules and principles on use of natural resources in the target villages																	
3	A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites	3-1	Select a local partner or contructor that can implement the CBET component on the ground																	JICA Project Team
		3-2	Develop an implementation plan for a trial run of CBET at the target communes																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
		3-3	Assess the potential environmental impacts and incorporate countermeasure into the implementation plan stated in the activity [3-2] above																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
		3-4	Establish an institutional set-up for implementation of the CBET program and enhance the capacity of the organized community group to participate in the CBET component																	JICA Project Team, BNBNPMB
		3-5	Make a trial run of CBET																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
		3-6	Evaluate the component implemented																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups

Outputs		Activities		Timeframe																Responsible agencies / bodies
				1st year				2nd year				3rd year				4th year				
No.	Summary	No.	Summary	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
4	The ecologically-friendly livelihood options that can be accepted by the target community groups developed and ready for dissemination among the communities.	4-1	Identify ecologically-friendly livelihood options to be introduced in the target villages																	JICA Project Team, BNBNPMB, DARD
		4-2	Develop a work plan to introduce ecologically-friendly livelihood opions in the target villages																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
		4-3a	Organize hands-on training (Field Farmers' Schools: FFSs) in the plots of the core members (If the proposed livelihood option is the improvement of africultural production such as coffee)																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
	Deleted 4-3b	4-3c	Organized hands-on training on livelihood options (If the proposed livelihood option is the production of cottage industry such as handicraft)																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
		4-4	Evaluate the component implemented																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
		4-5	Develop an/a extention plan / promotion plan to disseminate the same options to other villagers as well as other villages																	JICA Project Team, BNBNPMB, Contractor, Community groups
5	Issies to be addressed and actions to be taken are clarified so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the ecologically-friendly livelihood options introduced by the project	5-1	Based on the results of the evaluation in [3-6] and [4-4], identify necessary supports for the target villages to continue the CBET and ecologically-friendly livelihhood options components after termination of the project																	
		5-2	Draft an agreement between BNBNPMB and the target community groups on co-management of natural resources in the national park.																	
		5-3	Draft a provincial government document(s) to support continuous implementtion of co-management																	

ANNEX 3 Allocation of JAPANESE EXPERTS from January 2010 until October 2011

EXPERTS	Year / Position / Assignment Field	2010												2011									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31
Long-Term Expert																							
1 Mr. K.Oda	Chief Advisor/CollaborativeManagement	5		25			8									24		19					
2 Dr. M. Yajima	Coordinator/Community Management		25(*)							9	21		23	5 28		9					31	6	
Short-Term Expert																							
1 Mr. M.Shintani	Ecotourism																					15	13

NOTE: (*) The figures above the bars in the table indicate the dates of the beginning and the end of the stay in Viet Nam

ANNEX 4 Allocation of Vietnamese CPs and WG members from April 2010 until November 2011

		2010												2011										
	Assignment / Field / Position	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	30	31	30	31	31	30	31	30
	Counterpart																							
1	Mr. Lê Văn Hương	Project Director (Director, BNBNP)																						
2	Mr. Đỗ Văn Ngọc	Project Manager (Vice Director, BNBNP)																						
3	Mr. Tôn Thất Minh	(Director, CTFR, BNBNP (ex Project Manager till August 2011)																						
4	Mr.Nguyễn Lương Minh	(Director, CEEE, BNBNP)																						
5	Ms.Nguyễn Thị Minh Hồng	(Chief Accountant BNBNP)																						
6	Ms. Trần Thị Hoàn	(Cashier)																						
	Working Group CBET																							
7	Mr. Trần Nhật Tiên	Officer of center for environmental education and ecotourism, BNBNP																						
8	Mr. K'Vâng	Officer of center for environmental education and ecotourism, BNBNP																						
9	Mr.Nguyễn Quốc Thuận	Officer of technical staff, BNBNP																						
10	Mr. Đào Viết Lương	Officer of forest ranger staff, BNBNP																						
11	Mr.Phạm Hùng	Officer of center for natural resources and environment monitoring, DONRE																						
12	Mr.Trần Khánh	Head of culture and sport section, DOCST																						
13	Mr.Hoàng Ngọc Huy	Head of section for tourism operation, DOCST																						
14	Mr. Phạm Xuân Nguyên(*)	Officer of center for environmental education and ecotourism, BNBNP																						
	Working Group EFLO																							
15	Mr. Tôn Thiện An	Vice director of technical & scientific department, BNBNP																						
16	Ms. Vũ Hạnh Dung	Officer of department of plan & international cooperation, BNBNP																						
17	Mr. Thân Xuân Quý	Director, Agircutural extension center in Lac Duong district																						
18	Mr. Nguyễn Văn Bằng	Head of technical department, Lam Dong Forestry division																						
19	Mr. Võ Hồng Dương	Head of Đưng Ra Jiêng forest ranger station, BNBNP																						
20	Mr. Trần Văn Tình	Head of Núi Bà forest ranger station, BNBNP																						
21	Mr. Nguyễn Đình Trường	Officer, Lam Dong Forestry Division, DARD																						

BNBNP:Bidoup-Núi Bà national park, CTFR: Center for Tropical Forest Research, CEEE:Center for Ecotourism and Environmental Education and
DONRE:Department of Natural Resouces and Environment, DOCST:Department of Culture, Science and Tourism
(*) Mr.Phạm Xuân Nguyên was employed as a Project staff since July 2011.

Annex 5 Achievement of the Main Activities (1)

Main Activities	Achievement
1-1. Organize working groups (WGs) for implementation of CBET and extension of ecologically-friendly livelihood development options in the target villages.	• Organizing working groups (WGs) for implementation of Community Based Ecotourism (CBET) and ecologically-friendly livelihood options (EFLO) were completed in March 2010. • From April 2010, eight WGs members started to work for the Project. • The number of the WG members increased to 13 as of November 2011. • Some of the WG members belonging to organizations other than BNBNPMB have difficulty in participating in the Project activities because of the duties in their organizations.
1-2. Provide trainings to WGs to enhance their capacity to implement the project.	• Training Needs Assessment for WG members and the National Park staff were conducted in March and May 2010 and training program was prepared. • The Project organized 2 training courses for WGs in accordance with the training program. • WGs also participated in the training courses on CBET and EFLO designed to target project participants, such as eco-tour guide training, ToTs, FFS on coffee and Safe Vegetable Production and Practice Based Extension on coffee. • WGs participated in the process of formulation of implementation plans, through which their capacity was strengthened. • However, some WG members belonging to organizations other than BNBNPMB could not sufficiently participated in the Project activities due to their own work assignments in the organizations.

Annex 5 Achievement of the Main Activities (2)

Main Activities	Achievement
2-1 Assess, together with local communities of the target villages, the current situation of the target villages in a participatory manner.	• Base line survey (BLS) of the target villages were conducted through Participatory Rural Appraisal (PRA) from April to June 2010. • In the BLS, socio-economic status of the five target villages (village profiling and 680 households status) were obtained. • In addition, PRA survey was conducted by Nang Lam University from July to September 2010 and thereby better understanding of formal and informal human relationships and decision making mechanisms inside the villages were obtained.
2-2 Develop, together with local communities of the target villages, rules and principles on the use of natural resources in the target villages.	• Five target village regulations on the management of natural resources were drafted in March 2011 by villagers with support of a Project consultant and the regulations were submitted to Lac Duong People's Committee for approval in April 2011. • Although the draft regulations were not approved by the District People's Committee on the ground that a proposed measure to restrain the sale of agriculture land could bring further burden to poor farmers. Consequently, the regulations have been revised, resubmitted to the Commune People's Community in October 2011. • The regulations are going to be enforced by villagers with the support of the Project as they were approved in November 2011. • Village regulations prepared by the villagers with assistance of the Project are composed of five sections; General Provision, Interests of the villagers, Responsibilities of villagers, VRMT (Village Regulation Management Team), and Organization for Implementation.

Annex 5 Achievement of the Main Activities (3)

3-1 Select a local partner or contractor that can implement the CBET component on the ground.	• Efforts were made to recruit competent local partners through various channels. • However, since ecotourism is still in early stage of development in Viet Nam, it was figured out that it was difficult to recruit local partners (contractors). • As a result, the Project recruited an international consultant as a short-term expert on CBET plan formulation and a local consultant as a CBET program officer (implementer of the plan) in September 2010 respectively. • The international consultant formulated an implementation plan on CBET in June 2011. • Currently one of BNBNPMB staff who used to be a head of WG members on CBET is working as a CBET officer with the support of the chief advisor due to the difficulty in terms of recruiting a competent local expert. • Under the situation the Project is planning to invite a short-term expert and /or a competent consultant domestically or from nearby countries from time to time to check the progress and make advices on issues happening as a the practical way to cope with the difficulty.
3-2 Develop an implementation plan for a trial run of CBET at the target villages	• The CBET implementation plan was formulated in May 2011 by a Project consultant and compiled as a report in June 2011. • In addition, infrastructure plan was prepared in June 2011. • A presentation on CBET work plan was conducted to the community representative in July 2011. • Marketing strategy has to be supplemented by the time trial begins.
3-3 Assess the potential environmental impacts and incorporate countermeasures into the implementation plan.	• EIA field survey was conducted by a Project consultant in March 2011. • EIA report was prepared and submitted to MONRE at the end of June 2011. • EIA appraisal mission on the CBET plan was conducted in July 2011. • The revised EIA report was resubmitted to MONRE at the end of November 2011 and it is expected that approval will be made shortly.
3-4 Establish an institutional set-up of the CBET component and enhance the capacity of organized community group to participate in the CBET component.	• Center for Ecotourism and Environment Education (CEEE) was set up in April 2011 by BNBNPMB as an organization responsible for the operation and management of CBET activities and the Visitor Center (VC). • Cleaning up campaign was conducted with CEEE in Lan Biang Mountain in June and August 2011. • Service fees of CBET activities and entrance fee of BNBNP were drafted and approved in August 2011. • A benefit sharing mechanism is currently under development. • 11 Tour Operators (TO) already signed the MoA as of November 2011. • As for the capacity development of the participants in the trial, training courses on English (October 2010-May 2011), first aid(April-May 2011), eco–tour guide(June-September 2011), and environmental interpretation (September 2011) were completed. • Various study tours were conducted as described in Chapter 3 in the main text. • The Project is planning to conduct several more training courses by the time trial begins.
3-5. Make a trial run of CBET	• Activity 3-5 is not implemented yet.
3-6. Evaluate the component implemented	• Activity 3-6 is not implemented yet.

Annex 5 Achievement of the Main Activities (4)

Main Activities	Achievement
4-1. Identify ecologically-friendly livelihood options to be introduced in the target village.	• EFLO options were identified based on PRA survey results and villagers' intention through two village meetings. • An EFLO is defined as an option with minimum negative environmental impacts, economic viability, and social acceptance, adoptability to substitute forest dependent livelihoods, and support for forest resources conservation activities implemented by the BNBNPMB.
4-2. Develop a work plan to introduce ecologically-friendly livelihood options in the target villages.	• An EFLO work plan (2011-2013) was developed in March 2011 based on the results of BSL,PRA, and TNA surveys. • The current conditions of the target villages clarified through the surveys are as below: - The process of transforming to cash-crop production has unevenly occurred in five target villages; farm management, - Forest resource based livelihoods remain important in poorer groups; - The target villages received strong support from government programs but, the self reliance has not been adequately emphasized. • FFS is adopted as a main approach of the EFLO development.
4-3. Organize hands-on training (Farmer Field School) in the plots of the core members.	• TOT on Safe Vegetable Production (March 2011), and Coffee production (April-May 2011) were conducted. • Farmers Field School (FFS) on coffee production has been conducted since July 2011 in Da Nhim commune. • In Lac Duong town, field trial on safe vegetable production has been conducted since August 2011 and Practice-Based Extension on coffee have been being conducted in the plots of the core members since July or August 2011. • And the current hands-on trainings which could be modified based on the participatory evaluation are continuously conducted in the following years. Hence at this moment the activity is judged to be 20% done. When fully done in the following years, these activities would fully contribute to the successful generation of Output 4.
4-4. Evaluate the component implemented.	• The activity 4-4 is not implemented yet.
4-5. Develop an/a extension plan / promotion plan to disseminate the same options to other villagers as well as other villages.	• The activity 4-5 is not implemented yet.

Annex 5 Achievement of the Main Activities (5)

Main Activities	Achievement
5-1 Based on the results of the evaluation in [3-6] and [4-4], identify necessary support for the target villages to continue the CBET and ecologically-friendly livelihood options.	• The activities 5-1 is not implemented yet.
5-2 Draft an agreement between BNBNMB and the target community groups on co-management of natural resources in the national park.	• The activities 5-2 is not implemented yet.
5-3 Draft a provincial government document(s) to support continuous implementation of co-management	• The activities 5-3 is not implemented yet.

ANNEX 6 Draft Project Design Matrix (PDM) (version 3.0)

Project Title: The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park
Project Period: 2010.1- 2013.12 (4 year)
Target Area: Five villages (B'No B, Bon Dung I, Da Tro, Da Ra Hoa, Da Blah) in the buffer zone of Bidoup-Nui Ba National Park
Target Group: Bidoup-Nui Ba National Park Management Board (BNBNPMB), Department of Agriculture and Rural Development (DARD), Five Target Villages

Ver.3.0 (prepared in December 2011)

NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTION
Overall Goal BNBNPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community groups[1] in a collaborative manner.	1. Agreements between the target community groups and BNBNPMB on management of natural resources in part of the national park are concluded within three years after the end of the Project. 2. Policy recommendations are reflected in provincial government documents such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB for collaborative management of natural resources in part of the national park. 3. The target villages continue to practice the activities introduced by the project.	Agreement Government documents Government documents	
Project Purpose The capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages.	1. Consensus on collaborative management is built between the target community groups and BNBNPMB, then draft agreements on management of natural resources in part of the national park are prepared by the end of the Project. 2. Policy recommendations to provincial government for ensuring continuous implementation of collaborative management including activities of components of village regulations, CBET and EFLO are produced. 3. More than 70% of the BNBNP staff who participate in the Project understands how to implement the model of collaborative management of natural resources in the national park.	Project Report Project Report Interview/Questionnaire Survey in the beginning, mid-term review and terminal evaluation.	There is no significant change in natural environment of the park.
Outputs 1. Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established.	1-1. Working groups are formulated within 3 months after the commencement of the Project. 1-2. The capacities of working groups members are enhanced through a series of training courses organized by the project as compared with those before the project	Project Report/Decision Questionnaire Survey/Interview before and after the training	1. There is no significant change in upper level development plans, policies, and laws. 2. There is no major change in the organizational structure, upper level plan, policy and regulations of BNBNPMB. 3. Economic situation does not deteriorate dramatically in the local context.
2. Basic principles/rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community groups and BNBNPMB.	2-1. Basic information of the target villages, including present resource map of the village, is gathered and prepared in a participatory manner within 9 months after the commencement of the Project. 2-2. Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the Project and are enforced by villagers themselves.	Project Report / Plan Project Report / Map	

3. A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites.	3-1. Implementation plans of CBET at the selected sites are prepared within 16 month after the commencement of the Project. 3-2. More than 5% of the households in the target villages take part in the CBET component with some earnings from CBET activities. 3-3. More than 15 tour operators which have signed minutes of agreement with BNBNPMB participate in CBET activities. 3-4. Institutional and infrastructure set-ups are developed for implementation of a trial run of CBET model within 18 months and 28 months respectively after the commencement of the Project. 3-5. More than 50% of visitors / guests are satisfied with the contents of the CBET model offered by the component. 3-6. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.	Project Report / Plan Agreement made among three parties Project Report Questionnaire Survey/ Interview Workshop Report Workshop Report	
4. The ecologically-friendly livelihood options (EFLO) that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities.	4-1. More than 70 % of the members of the community groups adopt at least one of the ecologically-friendly livelihood options introduced in the component, and more than 50% of the participants of EFLO raise production or value of crops they are cultivating. 4-2. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders. 4-3. An/A extension plan and promotion plan to disseminate the same options to other villagers, as well as other villages is prepared.	Questionnaire Survey/ Interview Workshop Report Project Report/Extension plan	
5. Issues to be addressed and actions to be taken are clarified so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the EFLO introduced by the Project.	5-1. Issues to be addressed and necessary actions/interventions to be taken are reported by the project management in Joint Coordinating Committee (JCC) by the end of the Project. 5-2. An action plan with recommendations to the relevant organizations are approved by JCC by the end of the Project.	Project Report M/M agreed by JCC Project Report M/M agreed by JCC	

1: "Target community groups" are the villagers' groups of community /households who are living in the same village and willing to take part in the Project.
2: "Participants of EFLO" means those who participate in Famer's Field School (FFS), Farmer to Farmer Extension (FF), Practice-based Extension (PBE), etc. which are carried out by the Project.

Activities	Inputs		
	Japanese Side	**Vietnamese Side**	
1-1. Organize working groups (WGs) for implementation of CBET and extension of EFLO in the target villages. 1-1-1 Clarify and define the roles and responsibilities of the relevant divisions and sections under DARD of Lamdong Province. 1-1-2 Select staffs who can work for the Project from the relevant sections and divisions of BNBNPMB, DARD of Lamdong Province, and DAC (District Agriculture Center) 1-1-3 Organize working groups and define the roles and responsibilities of the members of the groups 1-1-4 Reorganize and strengthen WG when CBET and EFLO get into implementation stage.	**Japanese Experts (long-term)** • Chief Advisor/Collaborative Management • Coordinator/Community Development (Other experts will be determined during the course of the Project as needed.)	**Counterpart Personnel** • Chairperson of the Provincial Steering Committee • Project Manager • Staff of BNBNPMB • Staff of DARD • Staff of District Agriculture Center	I. Economic situation does not worsen drastically. 2 An extensive wildfire does not occur. 3. There is no significant transfer of counterpart personnel in WG. 4. There is no plan of resettlement for the target communes.park boundary.
1-2. Provide training to the WGs to enhance their capacity to implement the Project. 1-2-1 Conduct a training need assessment to identify the training needs of the members of WGs 1-2-2 Develop a training / capacity development program for the members based on the results of training needs assessment 1-2-3 Implement a training/capacity development program.	**Equipment and machinery**	**Facility and Equipment** • Project office building • Office facilities	
2-1. Assess, together with local communities of the target villages, the current situation of the target villages in a participatory manner 2-1-1 Develop the TOR for the survey and invite possible local resources to a bid. 2-1-2 Select a/ contractor/s for the work 2-1-3 Organize and hold socialization and consultation meetings at the target villages to explain the project to local communities of the villages. 2-1-4 Select community members who would take part in the implementation of the Project. 2-1-5 Conduct a household interview survey and PRA at the target villages. 2-1-6 Figure out the present natural and social conditions of the target villages, traditional knowledge and practices in natural resource use, issues in natural resources use and agricultural production, any development needs and potentials of the target villages.	**Provision of training** **Local expense**	**Administration and operational cost**	
2-2 Develop, together with local communities of the target villages, rules and principles on use of natural resources in the target villages and enforce them with local communities. 2-2-1 Develop a present conceptual map on resources of the target villages through participatory method. 2-2-2 Identify the potential natural resources that can be used forCBET or EFLO support. 2-2-3 Develop rules and principles on use and management of natural resources in the national park so that local communities can gain economic benefits from the resources in a sustainable manner 2-2-4 Enforce the rules and principles together with local communities.			
2-3 Develop and operate Benefit Sharing Mechanism on CBET and EFLO with communities which benefit the target villages 2-3-1 Develop Benefit Sharing Mechanism on CBET and EFLO in a participatory manner. 2-3-2 Operate Benefit Sharing Mechanism together with communities.			
3-1 Select a local partner or contractor that can implement the CBET component on the ground			

3-2 Develop an implementation plan for a trial run of CBET at the target villages. 3-2-1 Select local communities/households who will take part in the CBET component considering the resource used for CBET and organize the selected households into group(s) 3-2-2 Identify necessary activities for implementation of the CBET component together with the organized community group. 3-2-3 Identify necessary facilities and equipment / other infrastructure set-ups for implementation of the CBET component and confirm site conditions where the listed facilities / equipment are to be installed/built. 3-2-4 Develop a work plan including a construction plan for the CBET component in a participatory manner. 3-2-5 Estimate the total budget required for implementation of the CBET component. 3-2-6 Build a consensus among all the stakeholders on sharing cost as well as responsibilities in implementation of the CBET component.			
3-3 Assess the potential environmental impacts and incorporate countermeasures into the implementation plan stated in activity [3-2] above. 3-3-1 Review the existing regulations on environmental impact assessment. 3-3-2 Identify the potential environmental impacts attributable to CBET component 3-3-3 Assess the identified impacts from legal perspectives and non-legal perspectives (community value). 3-3-4 Incorporate countermeasures as necessary.			
3-4 Establish an institutional set-up for implementation of the CBET component and enhance the capacity of the organized community group to participate in the CBET component. 3-4-1 Develop a training plan for the members of the community group so that they can take part in the CBET component. 3-4-2 Organize a variety of training courses for the members in accordance with the training plan. 3-4-3 Set up fees to be collected from a guest (e.g., payment to a guide, accommodation fee, etc.) in a participatory manner. 3-4-4 Build a consensus among the stakeholders on sharing benefits gained from implementation of the CBET component. 3-4-5 Construct/install facilities and equipment as planned in [3-2] by the Project 3-4-6 Make a rule on use of facilities and equipment provided under the CBET component and make an agreement among the community group, BNBNPMB and the Project. 3-4-7 Formulate a marketing strategy for a CBET model (e.g., preparation of simple advertising materials, namely brochure and flyer) 3-4-8 Make a contingency plan in preparation of any accidents during implementation of the CBET component. 3-4-9 Make business cooperation with Tour Operators through MoA.			
3-5 Make a trial run of CBET 3-5-1 Assist the target community group in the implementation of a CBET model on trial. 3-5-2 Check the satisfactory level of guests by using a simple questionnaire 3-5-3 Monitor the progress of the component periodically and provide necessary technical assistance to the community group as well as the NGO(s).			

3-6 Evaluate the component implemented. 3-6-1 Develop an evaluation plan to evaluate the CBET component together with the working group 3-6-2 Organize separate evaluation workshops with the community group and BNBNPMB, respectively. 3-6-3 Draw lessons learned and present recommendations.			
4-1 Identify EFLO to be introduced in the target villages. 4-1-1 Assess the present constraints on agricultural production. 4-1-2 Short-list the possible livelihood options to be introduced in the target village based on the land use and resource map Assumptions prepared in [2-1]. 4-1-3 Assess the possible options easiness, applicability, economic impact, environmental impact, and demonstration effect together with local communities 4-1-4 Select the EFLO to be introduced in the target villages.			
4-2 Develop a work plan to introduce EFLO in the target villages. 4-2-1 Select local communities / households who participate in the program and organize them into a group at each village. 4-2-2 Select core members for demonstration purposes and define the roles and responsibilities of the members of the groups. 4-2-3 Make a work plan including a hands-on training together with the community group defining responsible persons/bodies for each activity of the work plan and make an agreement among the community group, the work group and the Project. 4-2-4 Facilitate the discussion of sharing benefits/products gained in the program among the members. 4-2-5 Estimate the total cost necessary for implementation of the component.			
4-3a Organize hands-on training (Farmer Field schools; FFSs and relevant hands-on trainings) in the plots of the core members (If the proposed livelihood option is the improvement of agricultural production such as coffee). Organize groups among the graduates of FFS etc. and improve the management environment and add the value of the crops 4-3a-I Organize study tours for the community group as well as core members (In the case where only the core members are taken to a study tour, a feedback meeting should be organized to share the results of the study tour with other members.) 4-3a-2 Organize a series of hands-on training courses (Farmer Field Schools: FFSs) at the demonstration plots. 4-3a-3 Provide necessary materials so that other group members could introduce the farming techniques demonstrated in FFSs. 4-3a-4 Organize an annual monitoring workshop with each community group. 4-3a-5 Make trainer's manuals on the hands-on trainings based on the results of the trainings 4-3a-6 Organize groups among the graduates of FFS and the relevant trainings 4-3a-7 Increase profitability of EFLO activities through improvement in credit accessibility, processing and marketing.			
4-3c Organize hands-on training on livelihood options (If the proposed livelihood option is the production of cottage industry, such as handicraft). 4-3c-1 Organize study tours for the community group as well as core members (In the case where only the core members are taken to a study tour, a feedback meeting should be organized to share the results of the study tour with other members.) 4-3c-2 Organize a series of hands-on training courses on the proposed livelihood options 4-3c-3 Provide necessary materials so that other group members could introduce the techniques demonstrated in hands-on training. 4-3c-4 Conduct a research to market the products to be produced under the component. 4-3c-5 Organize an annual monitoring workshop with each community group.			

4-4 Evaluate the component implemented 4-4-1 Develop an evaluation plan to evaluate the ecologically-friendly livelihood support component together with the working group 4-4-2 Organize separate evaluation workshops with the community group and BNBNPMB, respectively. 4-4-3 Draw lessons learned and present recommendation			
4-5 Develop an/a extension plan/promotion plan to disseminate the same options to other villagers as well as other villages. 4-5-1 Identify potential difficulties in disseminating the options /techniques to other villages. 4-5-2 Develop a manual for application of the EFLO so that other local communities in the target villages as well as other villages around the park could introduce such options/techniques in their own farms/plots. 4-5-3 Formulate a marketing strategy to sell NTFPs/handicraft. /other products produced in the component (Simultaneously examine the possibility of the linkage with the CBET program, such as green tourism and souvenirs) 4-3-4 Draft an extension/promotion plan for promotion of the EFLO in the buffer zone of the park.			
5-1 Based on the results of the evaluation in [3-6] and [4-4], identify necessary supports for the target villages to continue the CBET and EFLO components after termination of the Project. 5-1-1 Identify necessary government support (e.g., any legislative arrangement for allocation of long-term resource use rights to the communes, an investment plan to support the target community group as well as other communities to continuously apply the EFLO, etc.) 5-1-2 Identify necessary training or capacity development activities for the target community groups to continue the components and manage natural resources in accordance with the rules/principles defined in [2-2]. 5-1-3 Explore possible funding sources for the target community groups to continue the components.			
5-2 Draft an agreement between BNBNPMB and the target community groups on collaborative management of natural resources in the national park. 5-2-1 Formulate a drafting team consists of stakeholders. 5-2-2 Prepare an initial draft. 5-2-2 Conduct public hearing. 5-2-3 Finalize the draft.			**PRECONDITIONS** I. Local communities who reside adjacent to the boundaries or currently use natural resources in BNBNP are willing to participate in the Project. 2. There is no plan of resettlement that makes all residents move out the park boundary.
5-3 Produce policy recommendations to provincial government for ensuring continuous implementation of collaborative management including activities of components of village regulations, CBET and EFLO. 5-3-1 Formulate a drafting team consists of stakeholders. 5-3-2 Prepare an initial draft(s). 5-3-3 Conduct public hearing. 5-3-4 Finalize the draft(s).			

ANNEX 7 List of Reports and Documents prepared by the Project

	Title (EN)	Date	
1	Village Report: Baseline survey for the project for strengthening community-based management capacity of Bidoup-Nui Ba National Park	Jun-10	EN/VN
2	Household Report: Baseline survey for the project for strengthening community-based management capacity of Bidoup-Nui Ba National Park	Jun-10	EN/VN
3	Village Report: Control survey for the project for strengthening community-based management capacity of Bidoup-Nui Ba National Park	Jul-10	EN/VN
4	Household Report: Control survey for the project for strengthening community-based management capacity of Bidoup-Nui Ba National Park	Aug-10	EN/VN
5	(Training report) Training Needs Assessment for the Project for Strengthening Community-based Management Capacity of the Bidoup-Nui Ba National Park	Oct-10	EN
6	(Training report) Communication Skills and Methods for Working with Local Communities	Oct-10	EN
7	(Training report) Training on Environmental interpretation and Ecotourism marketing held in Da Lat, Lam Dong from 1 to 5 November 2010	Dec-10	EN
8	Participatory Rural Appraisal for the Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park	Jan-11	EN/VN
9	Digital map update data (Conducting the 1:2000 scale cadastral map and the 1:10,000 scale land use map of 100 households in 5 villages – 2 in Da Nhim commune, 2 in Lat commune and 1 in Lac Duong Town, Lac Duong District, Lam Dong Province)	Jan-11	VN/EN
10	(Training report) Trainees in Farmer Field Schools on safe Vegetable production from March 7th to 11th, 2011 at Đalat City	Mar-11	EN/VN
11	Management Rule on Natural Resources for the Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba Natio	Mar-11	EN
12	EFLO research report: Facing institutional and agricultural weeknesses in coffee-based farming systems, Da Nhim Commune	Mar-11	EN
13	Report on Environmental Impact Assessment: The component of "Community-based Ecotourism" under the project for the Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park (draft)	May-11	EN/VN
14	(Training and consultancy report) Wilderness First Aid training and Emergency Plan	May-11	EN/VN
15	CBET Infrastructure plan: overall design	Jun-11	VN
16	Planning and Implementation of the Community Based Ecotourism Component (CBET) of the Project for Strengthening the Community Based Management Capacity of Bidoup Nui Ba National Park	Jun-11	EN/VN
17	(Training report) Training of Trainers on Farmer Field Schools in coffee production	Jun-11	EN/VN
18	Surveys of International and Domestic Tourists in Dalat	Jun-11	EN/VN
19	Entrance fee collection regulations: Bidoup-Nui Ba National Park	Sep-11	EN/VN
20	Visitor Center interrior design	Oct-11	-
21	3D model Visitor Center display	Oct-11	-
22	(Training report) Biodiversity training for eco-tour guides in Bidoup-Nui Ba National Park	Oct-11	EN/VN
23	(Training report) Training on determining direction and using GPS for eco-tour guides in Bidoup-Nui Ba National Park	Oct-11	EN/VN
24	Visitor Center display design	Nov-11	-

ジャイカ
JICA